

鶴岡市 在宅介護実態調査
報告書

令和8年3月
鶴岡市

鶴岡市 在宅介護実態調査報告書

【目次】

I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	1

II 在宅介護実態調査 調査結果

1. 調査対象者について	2
2. 主な介護者について	16
3. 認知症について	36
4. 終末期の療養について	37

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「鶴岡市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画」の策定に向けて、高齢者等の適切な在宅生活の継続と、家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスの在り方の検討や、施策推進のための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. 調査概要

- 調査対象者 : 市内在住の在宅で生活をしている要支援・要介護認定を受けている方(新規の申請者を除く)
- 調査期間 : 令和7年12月1日～令和8年1月31日
- 調査方法 : 郵送による配布

3. 回収結果

配布数	有効回答数	有効回答率
1,148 件	520 件	45.3%

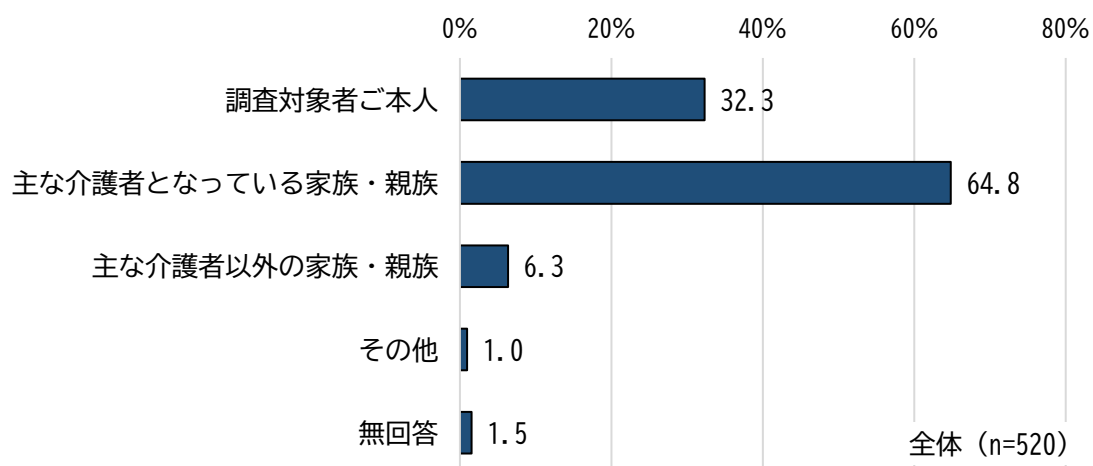
4. 報告書の見方

- 調査結果の比率は「%」で表示します。これはその設問の回答者数を基数とした回答の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。
- 四捨五入を行って表示を行うため、単数回答の設問では合計値が 100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合は、それぞれの選択肢ごとの回答の割合が示されることから、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中に「n=」と示される数値がありますが、これは回答者数を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は表現を簡略化したり、微小な回答についてはまとめて表示する場合があります。
- 調査票の設問をそのまま見出しとして使っているため、見出し番号と、見出し内の設問番号の()内の数字が一致しないことがあります。

Ⅱ 在宅介護調査 調査結果

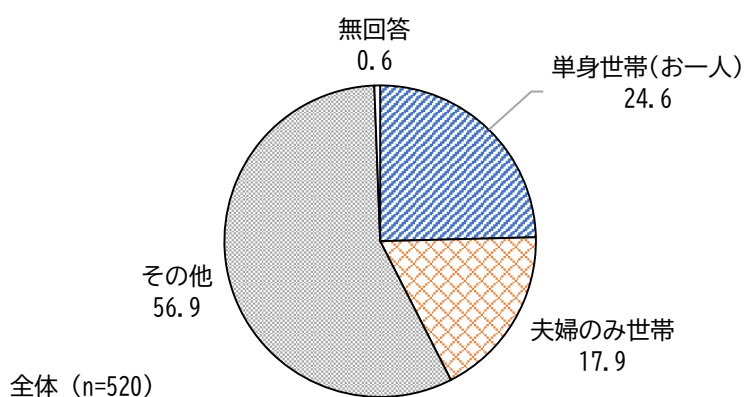
1. 調査対象者について

(1) 問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか(複数回答可)



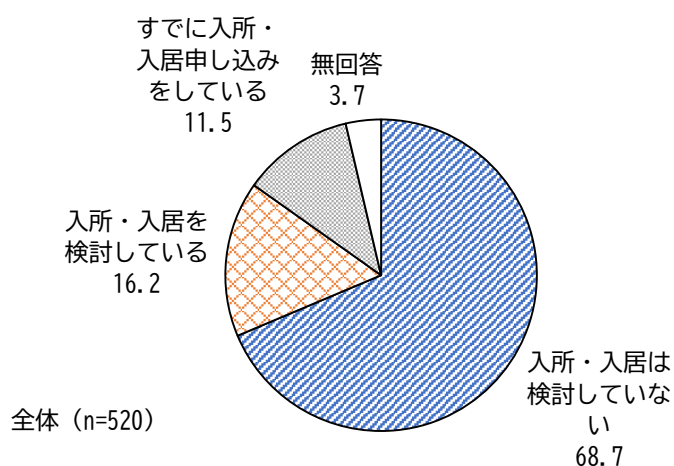
回答者については、「主な介護者となっている家族・親族」が 64.8%で最も割合が高く、次いで、「調査対象者本人」の 32.3%などとなっています。

(2) 問2 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)



世帯類型については、単身世帯が 24.6%と全体の約 4 分の1を占めています。夫婦のみ世帯が 17.9%となっており、全体の約4割は、単身もしくは夫婦のみの世帯となっています。

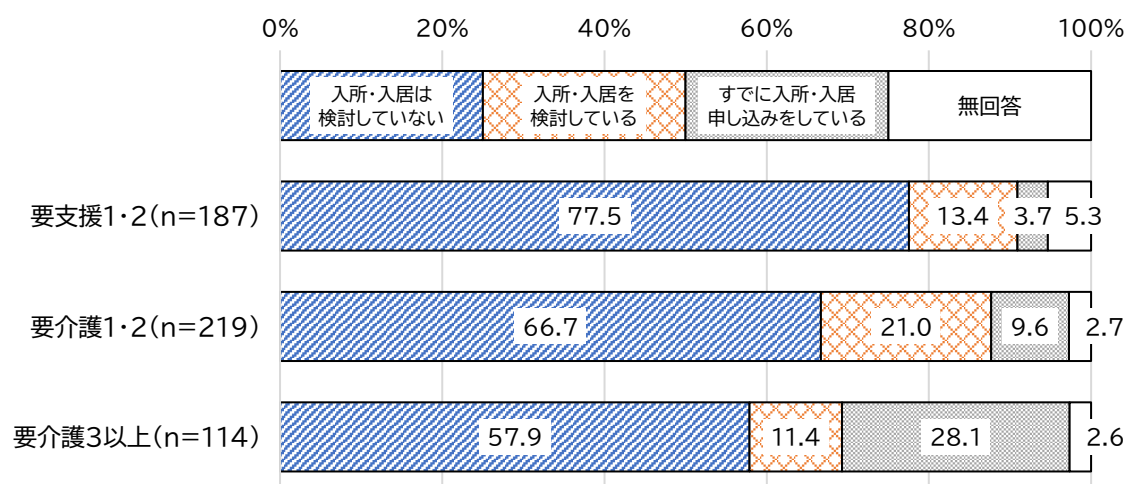
(3) 問3 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください
(1つを選択)



※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

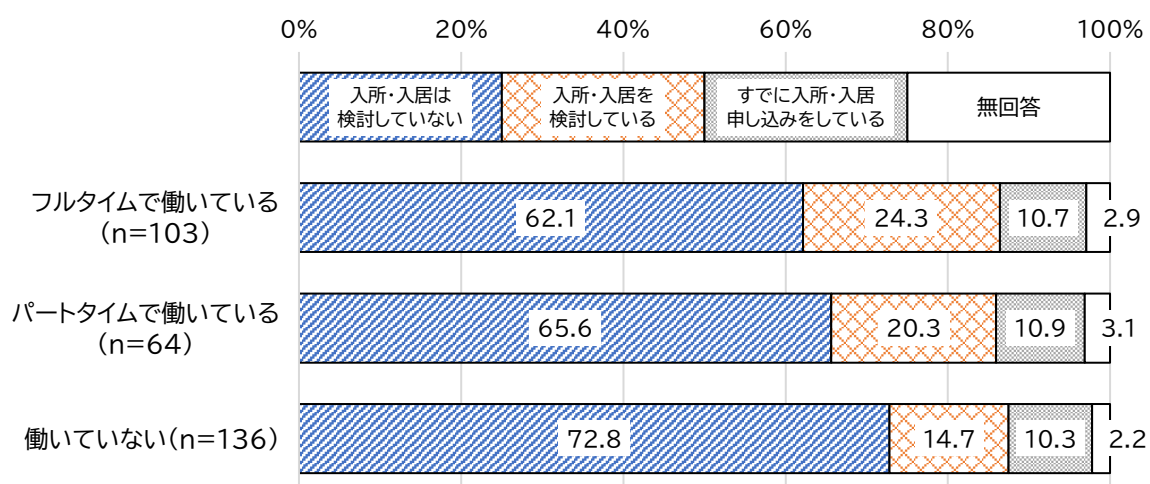
入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が68.7%です。

■要介護度別



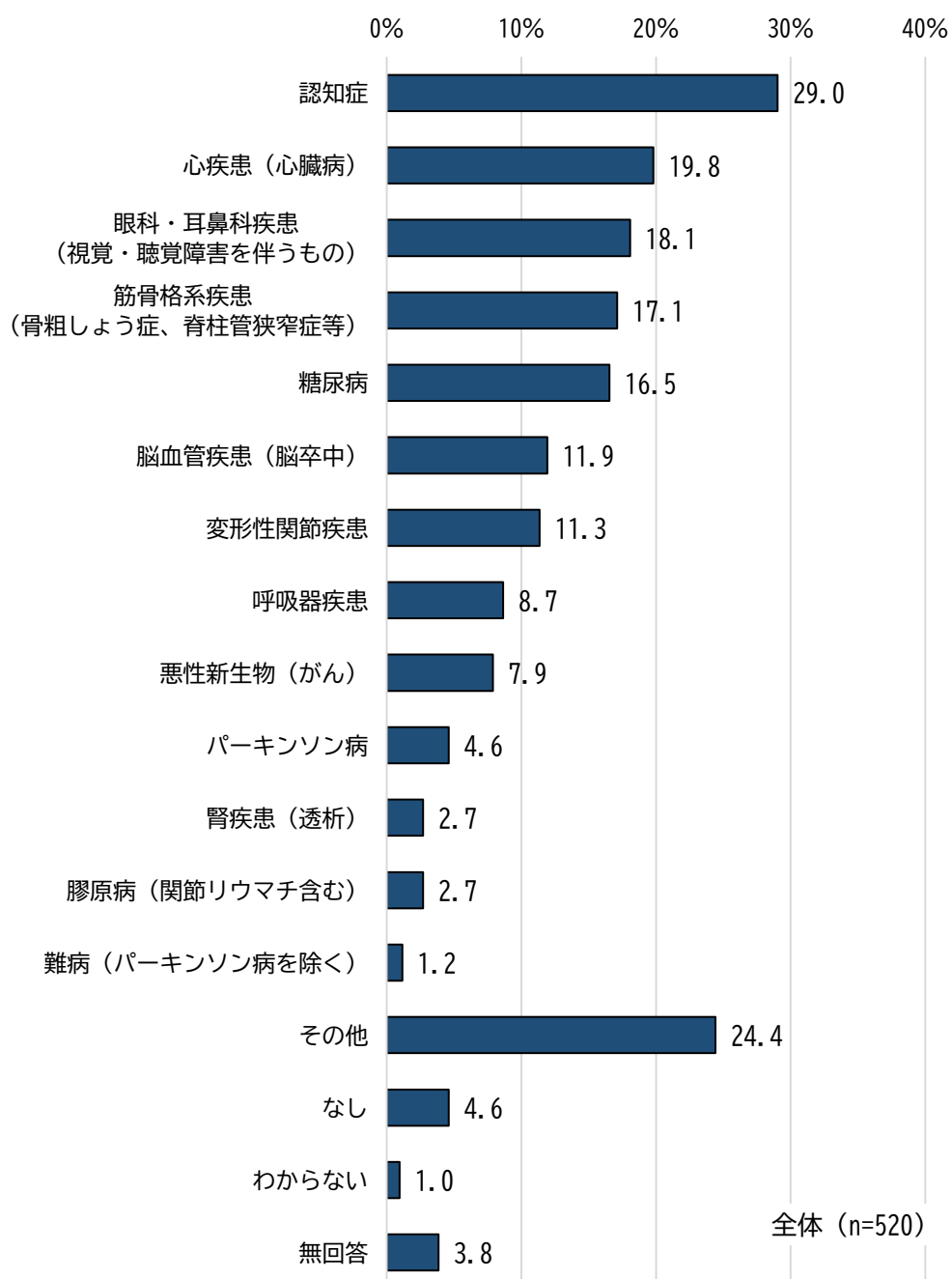
要介護度別では、要介護度が高くなるほど、「入所・入居は検討していない」の割合が低くなります。要介護度3以上では、「入所・入居を検討している」(11.4%)と「すでに入所・入居申し込みをしている」(28.1%)を合わせると約4割となります。

■主な介護者の就労状況別



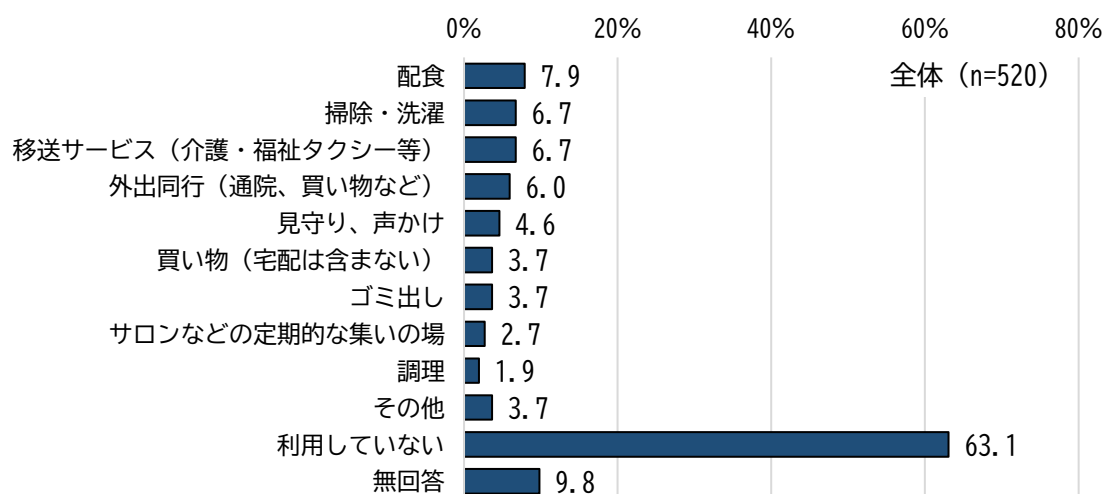
主な介護者の就労状況別でみると、「入所・入居は検討していない」の割合が最も高いのは、働いていない人で72.8%となっており、次いで、パートタイムで働いている人で65.6%、フルタイムで働いている人で62.1%となっています。勤務時間が長いほど、入所・入居の検討、申し込みをする割合が高くなっています。

(4) 問4 ご本人(認定調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください(複数選択可)



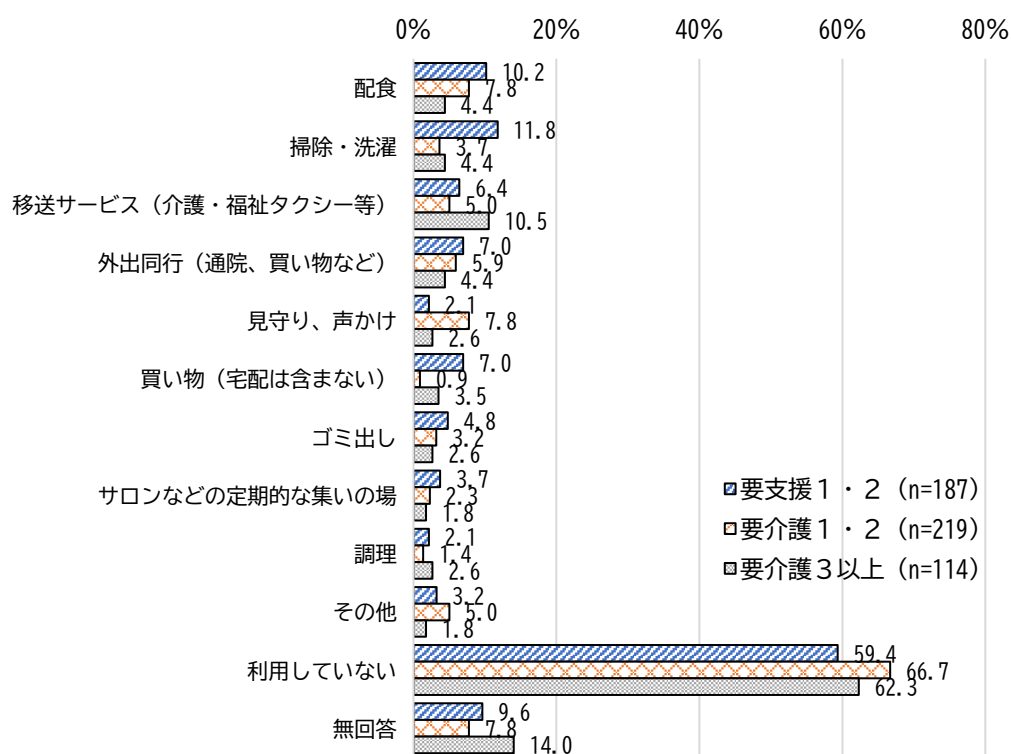
本人が現在抱えている傷病については、「認知症」との回答が 29.0%で最も割合が高く、次いで、「心疾患」が 19.8%、「眼科・耳鼻科疾患」が 18.1%などとなっています。

(5) 問5 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください(複数選択可)



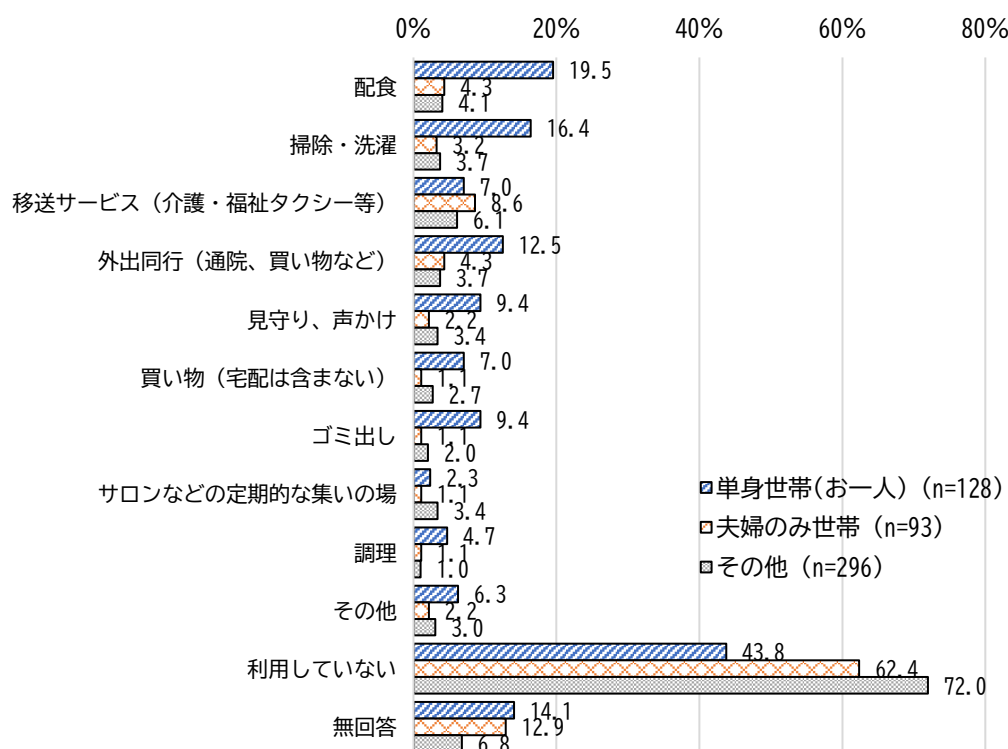
「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用については、「利用していない」が63.1%となっており、無回答を除くと、27.1%と3割弱の人が何らかの支援・サービスを受けていることとなります。利用している支援・サービスは、「配食」(7.9%)、「掃除・洗濯」「移送サービス」(いずれも 6.7%)、「外出同行」(6.0%)の順に割合が高くなっています。

■要介護度別



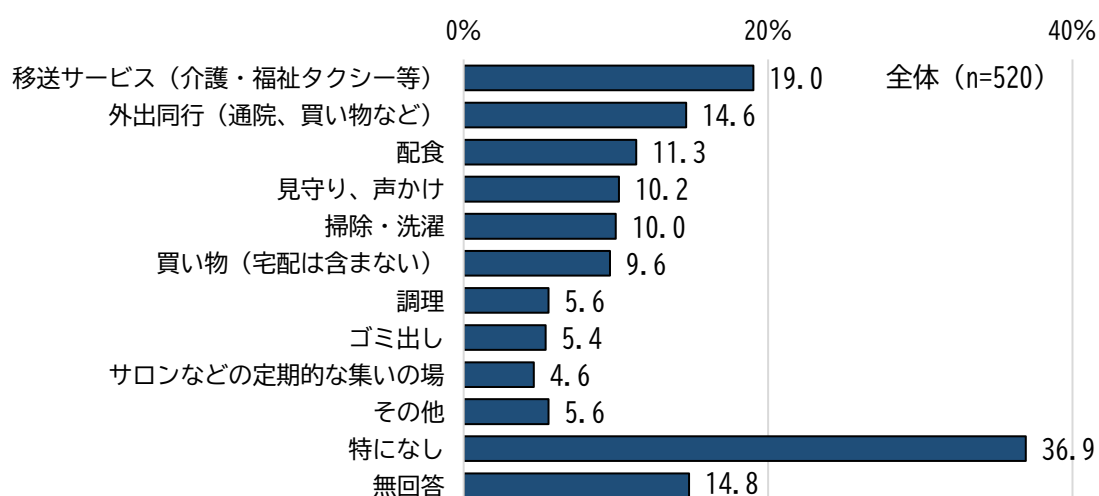
要介護度別では、要介護度 3 以上で、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」の割合が高くなっています。

■世帯累計別



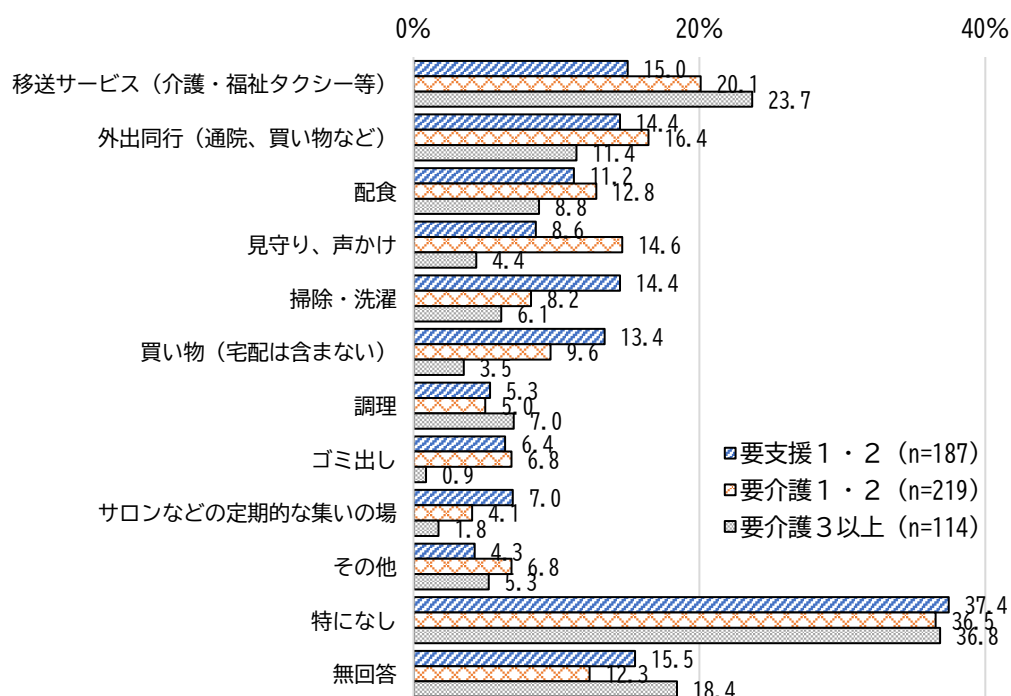
世帯累計別では、単身世帯では、「配食」、「掃除・洗濯」、「外出同行」、「見守り・声掛け」、「ゴミ出し」、「買い物」の順に割合が高く、他の世帯より割合が高く差がみられます。単身世帯は半数以上が何らかの支援・サービスを利用しているのに対し、家族と同居している世帯では「利用していない」割合が高くなる傾向がみられます。

(6) 問6 今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)



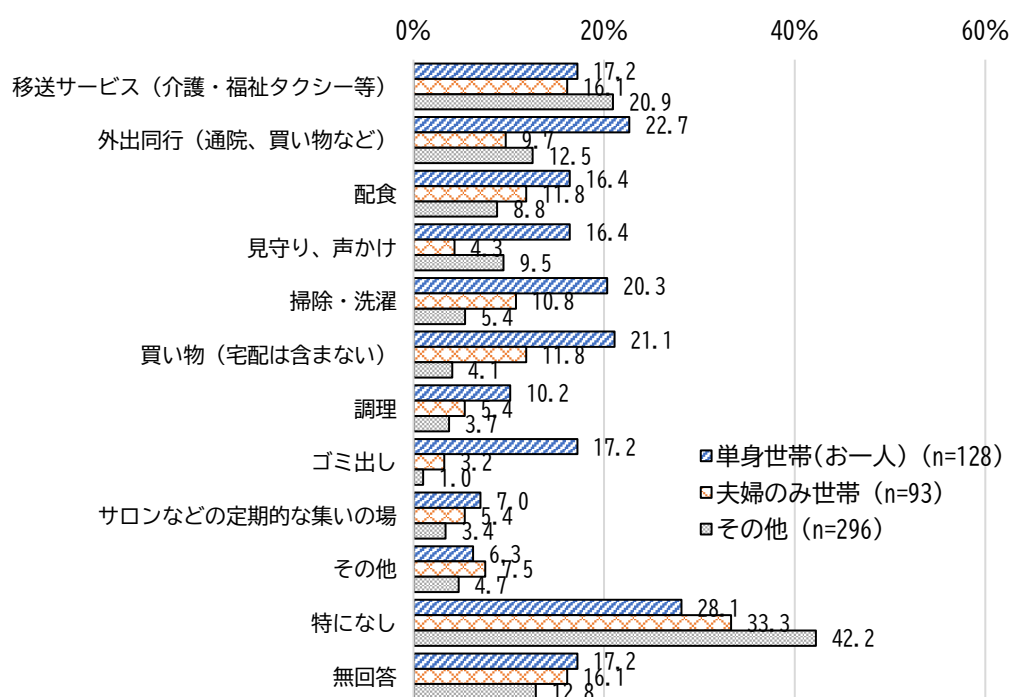
在宅生活の継続に必要な支援・サービスについては、「特になし」が 36.9%となっており、無回答を除くと、51.7%と5割強の人が何らかの支援・サービスを必要としていることとなります。必要な支援・サービスは、「移送サービス」(19.0%)、「外出同行」(14.6%)の外出に関するサービスの割合が高くなっています。

■世帯累計別



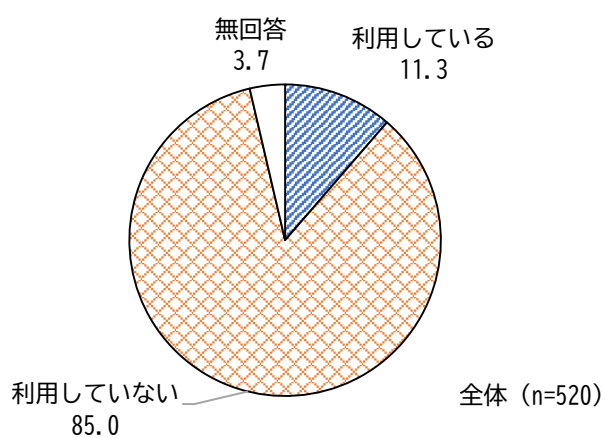
要介護度別では、要介護度 3 以上で、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」の割合が高くなっています。

■世帯累計別



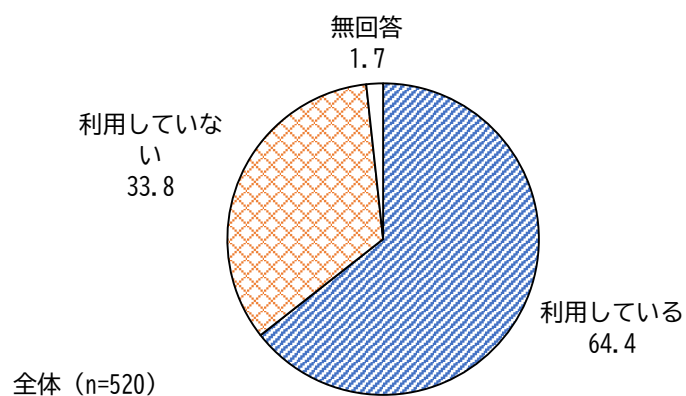
世帯累計別では、単身世帯で「外出同行」、「買い物」、「掃除・洗濯」、「移送サービス」、「ゴミ出し」、「配食」の順に割合が高く、「移送サービス」以外は、他の世帯よりも割合が高く差がみられます。

(7) 問7 ご本人(認定調査対象者)は、現在、医師による訪問診療を利用していますか(1つを選択)



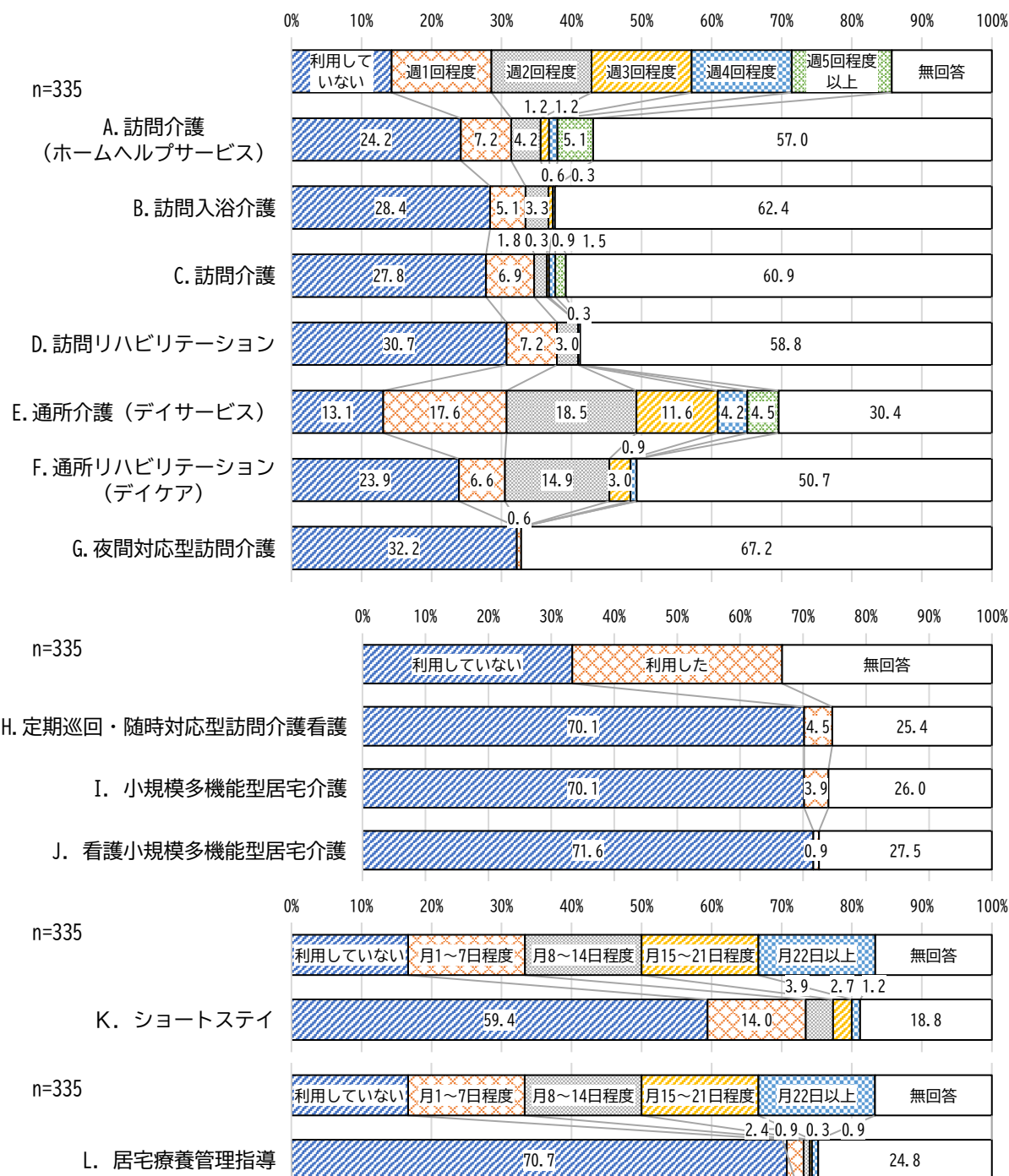
訪問診療について、「利用している」は全体の 11.3%と約 1 割となっています。

(8) 問8 現在、住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスを利用していますか(1つを選択)



住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービス利用について、「利用している」は全体の 64.4%と約3人に2人の割合で利用しています。

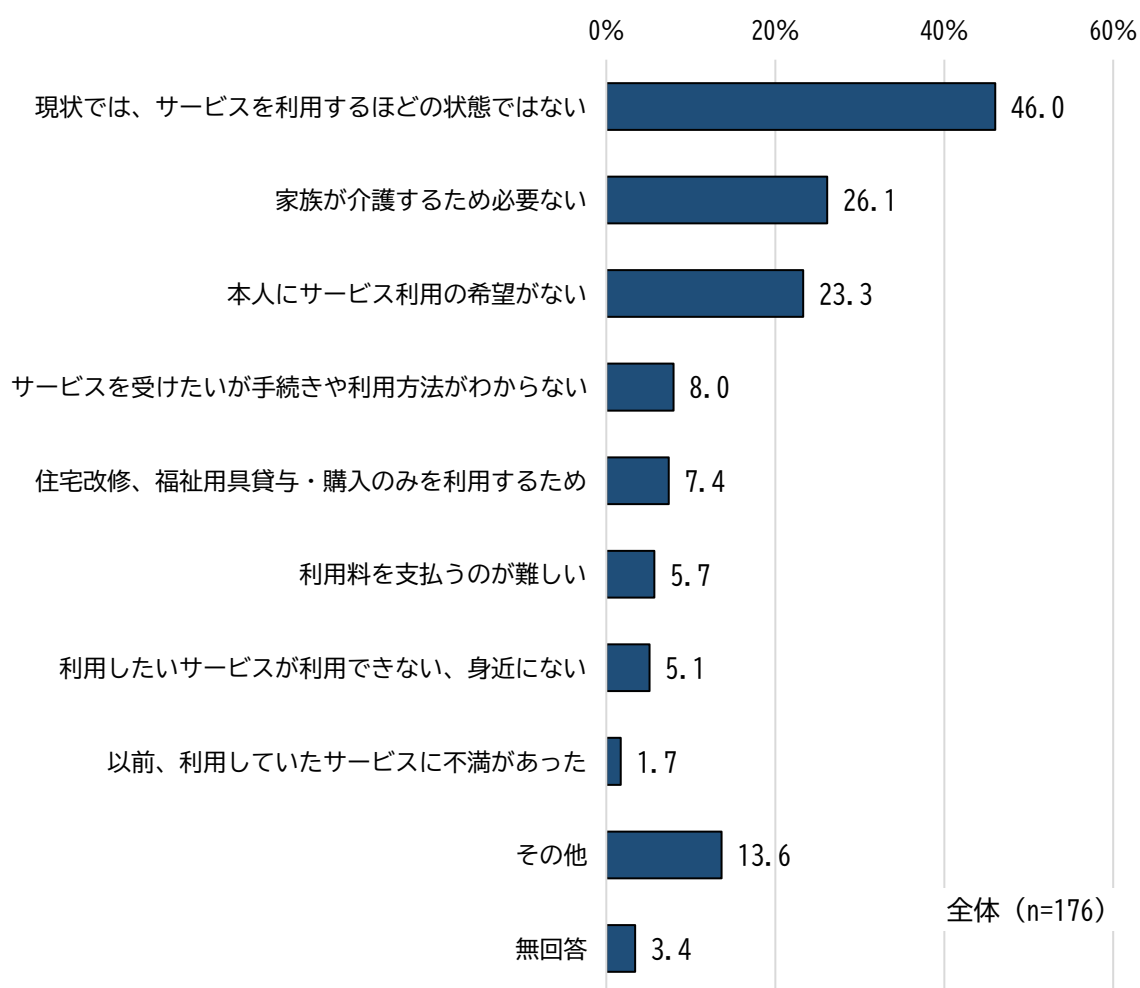
(9) 問9 問8で「1. 利用している」と回答した方にお伺いします。以下の介護保険サービスについて、直近1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護サービスをご利用になっていない場合は、「利用していない(0回、1. 利用していない)」を選択ください。(それぞれ1つ○)



※数値が0%の場合、グラフ内に数値を表示していません。

「無回答」が多く参考値ではありますが、利用している人の割合は、「E.通所介護(デイサービス)」(56.4%)が最も割合が高く、次いで「通所リハビリテーション(デイケア)」(25.4%)、「K. ショートステイ(21.8%)」、「A. 訪問介護(ホームヘルプサービス)」(18.8%)などとなっています。

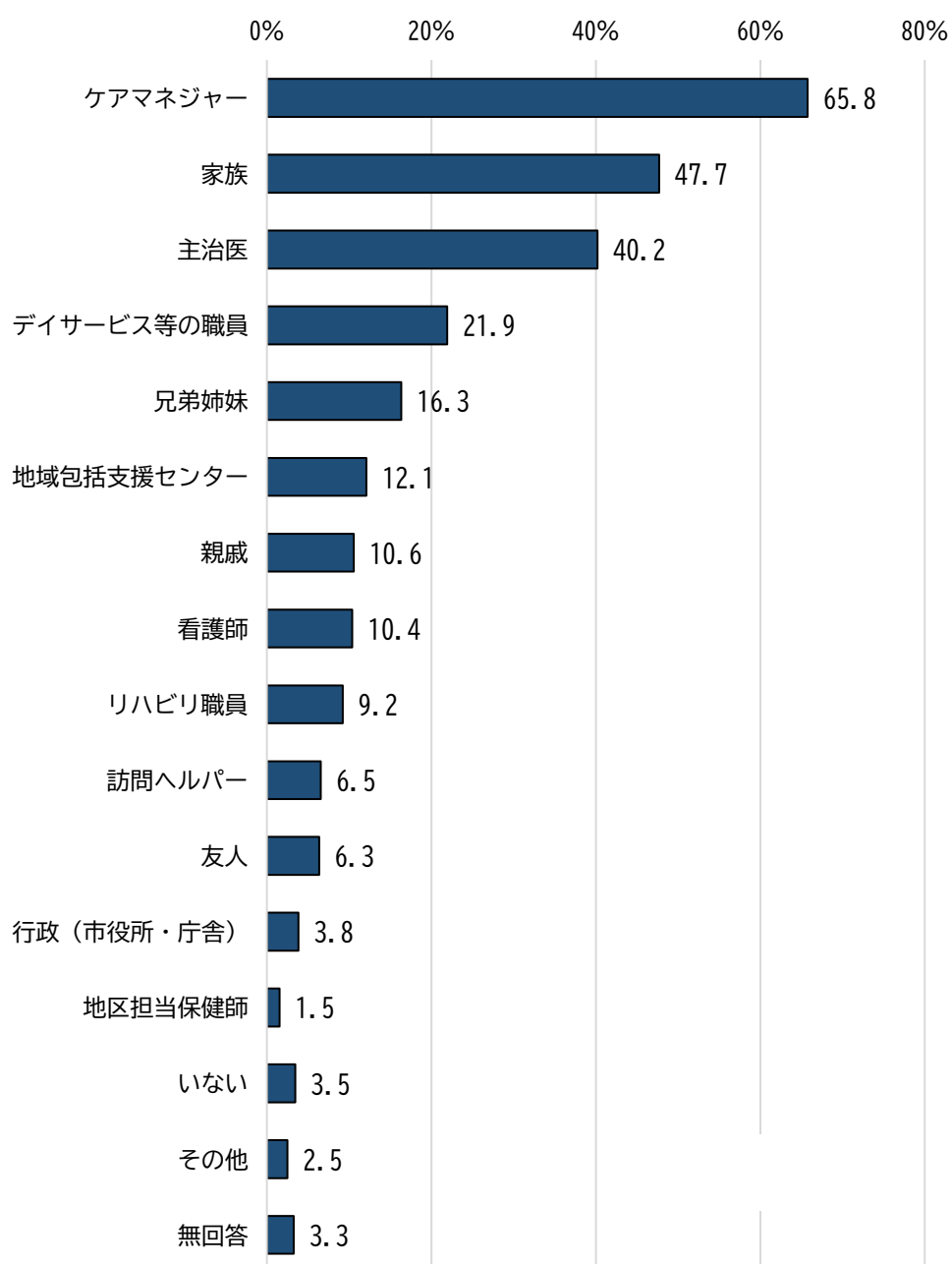
(10) 問10 問8で「2. 利用していない」と回答した方にお伺いします。介護保険サービスを利用していない理由は何ですか(複数選択可)



介護保険サービスを利用していない理由としては、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 46.0%で最も高くなっています。次に「家族が介護するため必要ない」(26.1%)、「本人にサービス利用の希望がない」(23.3%)の必要性がない・希望がないという理由が上位となっています。その他の理由としては、「サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない」(8.0%)、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」(7.4%)、「利用料を支払うのが難しい」(5.7%)、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」(5.1%)の順に割合が高くなっています。その他としては、入院中、入所中といった回答もありました。

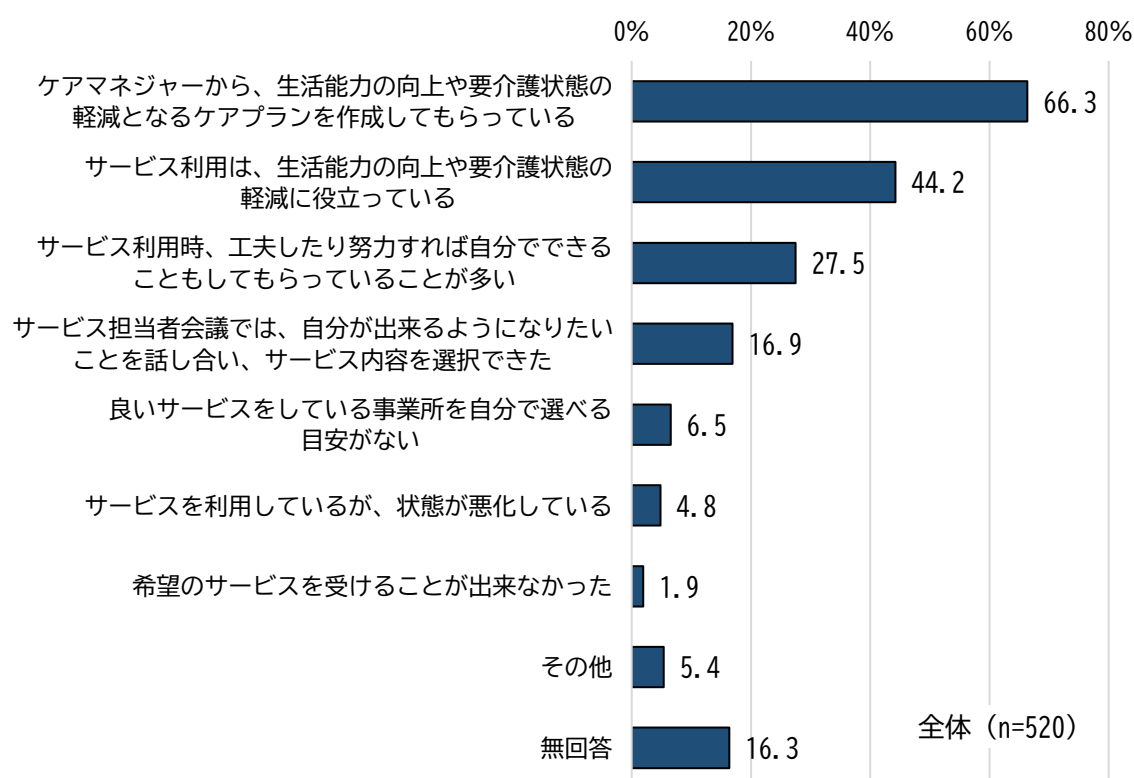
サービス利用ニーズがありながら利用に繋がっていない方への周知の必要があると考えられます。

(11)問 11 在宅での介護や生活続ける上で、信頼して相談できる方がいますか
(複数選択可)



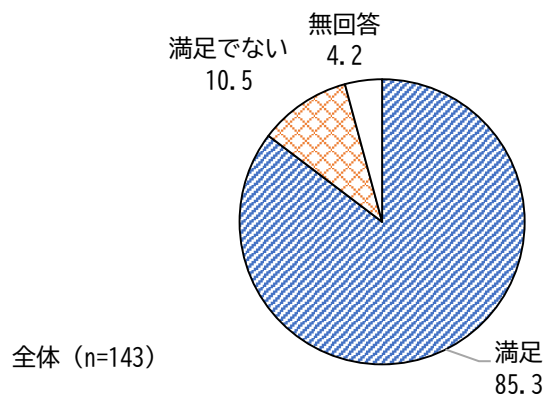
在宅での介護や生活続ける上で、信頼して相談できる人については、「ケアマネジャー」が 65.8%と約3人に2人の割合で最も高く、ケアマネジャーが大きな支えとなっていることが伺えます。次いで「家族」が 47.7%、主治医が 40.2%などとなっています。

(12) 問 12 現在、利用している介護保険サービスについて伺います。(複数選択可)



現在利用している介護保険サービスについては、「ケアマネジャーから、生活能力の向上や要介護状態の軽減となるケアプランを作成してもらっている」が 66.3%と約3人に2人の割合で最も高く、次に「サービス利用は、生活能力の向上や要介護状態の軽減に役立っている」が 44.2%となっており、4割半ばの人が、要介護状態の軽減に役立っていると感じています。その次に「サービス利用時、工夫したり努力すれば自分でできることもしてもらっていることが多い」が 27.5%、「サービス担当者会議では、自分が出来るようになりたいことを話し合い、サービス内容を選択できた」が 16.9%などとなっています。

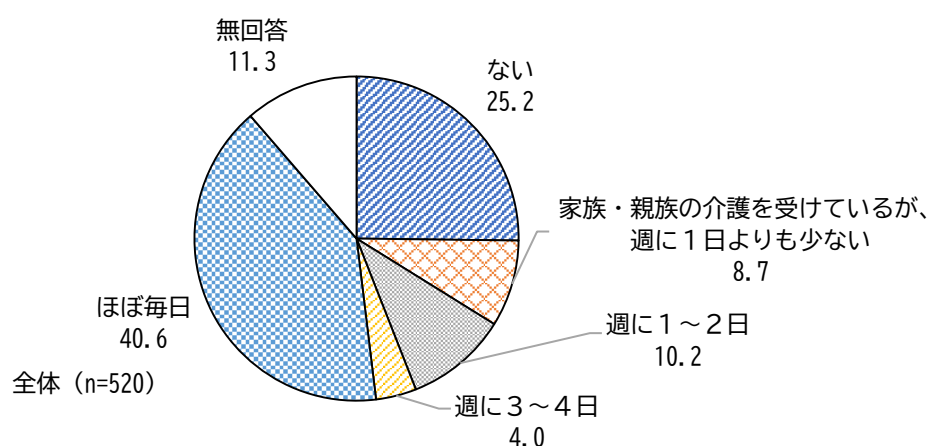
問 12 更問 「サービス利用時、工夫したり努力すれば自分でできることもしてもらっていることが多い」と回答した人 満足・満足でない どちらかに○



「サービス利用時、工夫したり努力すれば自分でできることもしてもらっていることが多い」と回答した人の 85.3%は「満足」と回答しています。

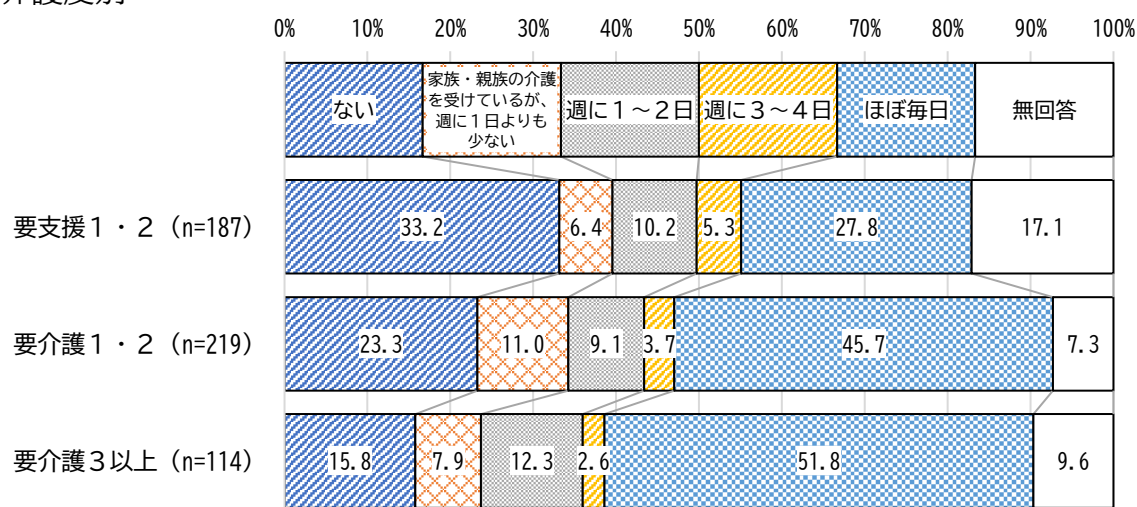
自分でできることも介護者にしてもらうことは、本人の有する能力を失わせることに繋がるため、介護保険制度の「要介護状態となった高齢者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行う」という目的・理念を介護事業者への周知及び市民啓発をする必要があります。

(13) 問 13 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)



家族や親族の方からの介護の頻度については、「ほぼ毎日ある」が40.6%で割合が最も高くなっています。「ない」(25.2%)と「無回答」(11.3%)を除くと、63.5%の人が介護を受けていることとなります。

■要介護度別

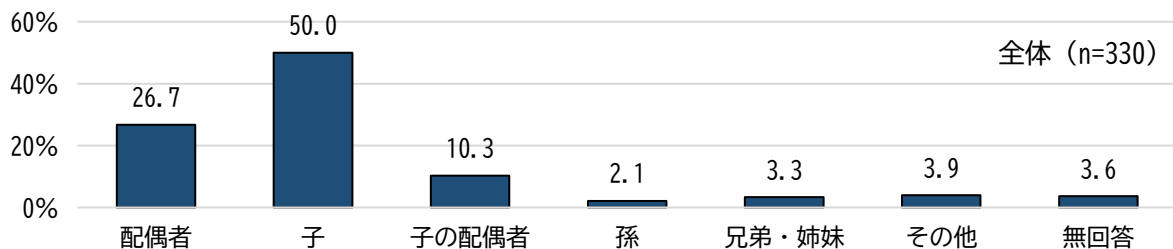


要介護度が高くなるほど、介護の頻度も高くなっています。

※以下の「2. 主な介護者の方について、お伺いします」の問いについては、この設問で、「ない」または「無回答」以外を回答した方を対象にたずねています。

2. 主な介護者について

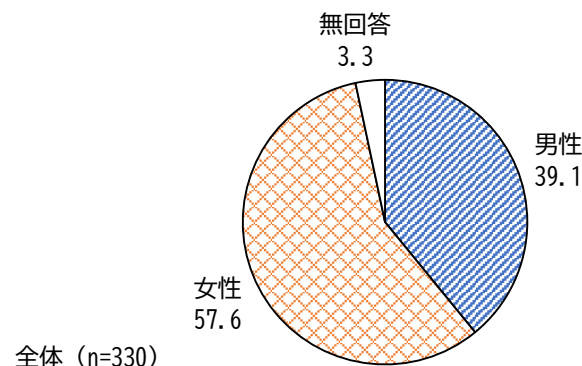
(1) 問1 主な介護者の方は、どなたですか(1つを選択)



主な介護者は、「子」が全体の 50.0%で最も割合が高く、「子の配偶者」(10.3%)を合わせると約6割となります。「配偶者」は 26.7%となっており、子及びこの配偶者と本人の配偶者で9割近くを占めます。

在宅介護を続けるためには、介護サービスの利用に加えて家族の介護が重要であり、よって介護家族支援事業も重要となります。また、家族がいない独居高齢者が増加傾向であるため在宅介護の継続について対策が必要と思われます。

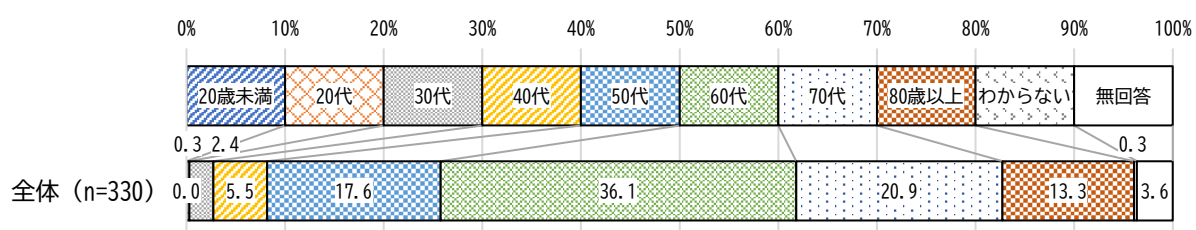
(2) 問2 主な介護者の方の性別について、ご回答ください(1つを選択)



主な介護者は、男性が 39.1%、女性が 57.6%となっています。

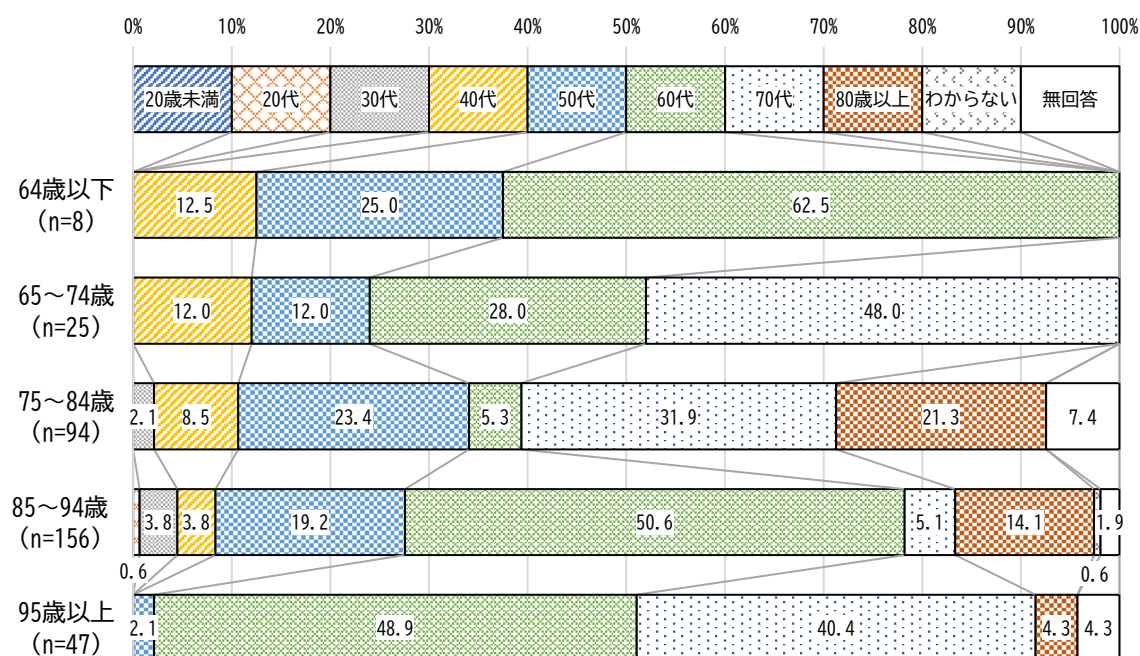
男性介護者は経験が少ない家事活動と併せて介護を行わなければならないことから負担が大きいと思われます。男性介護者のつどいのような場をつくり、支援する仕組みが必要と考えられます。

(3) 問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)



介護者の年齢では、60代が36.1%で最も割合が高くなっています。60歳以上は合計で70.3%、70歳以上の合計で34.2%と、老々介護の割合が高くなっています。

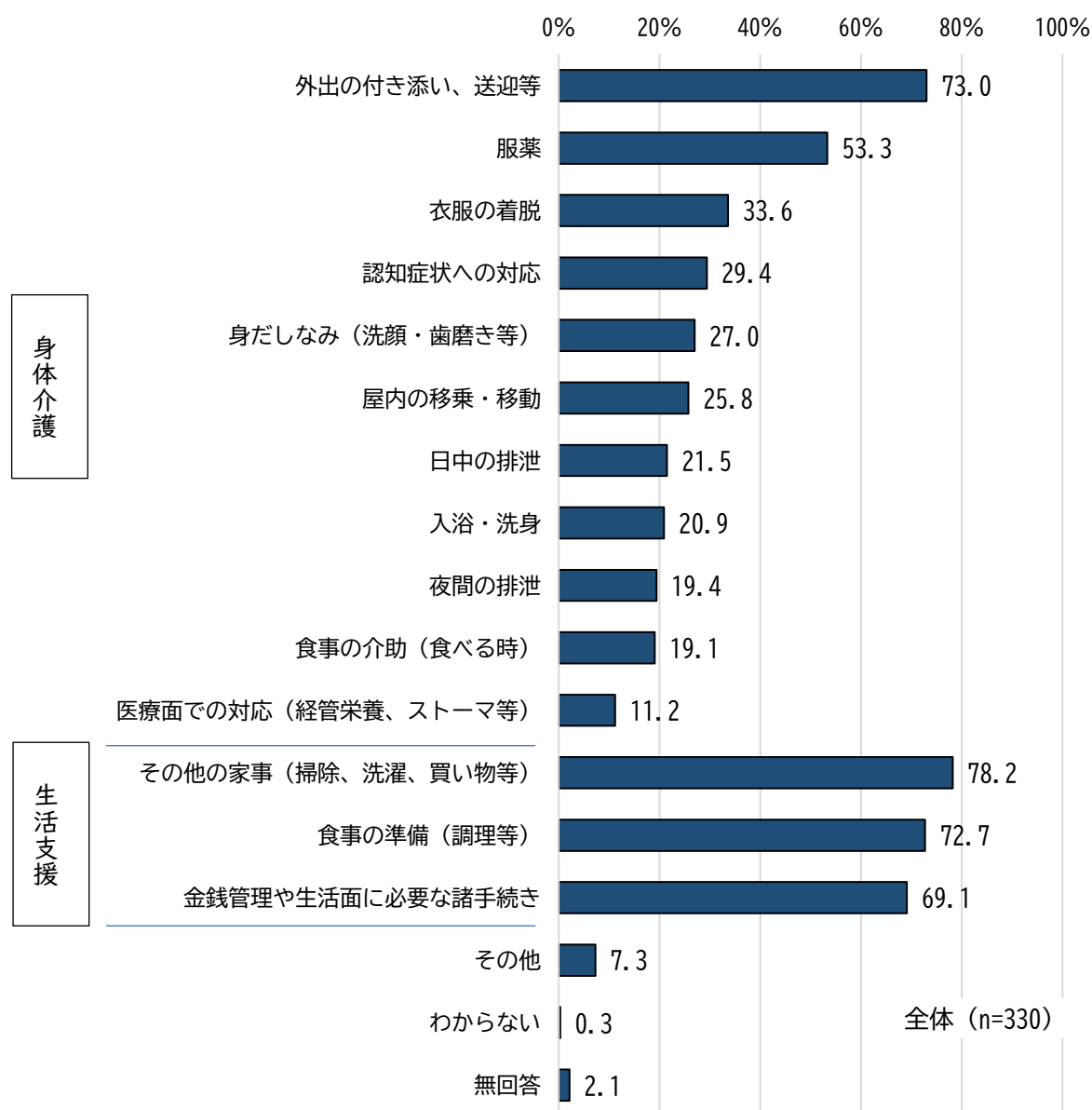
■本人の年齢別



※数値が0の場合、グラフ内に数値を掲示していません。

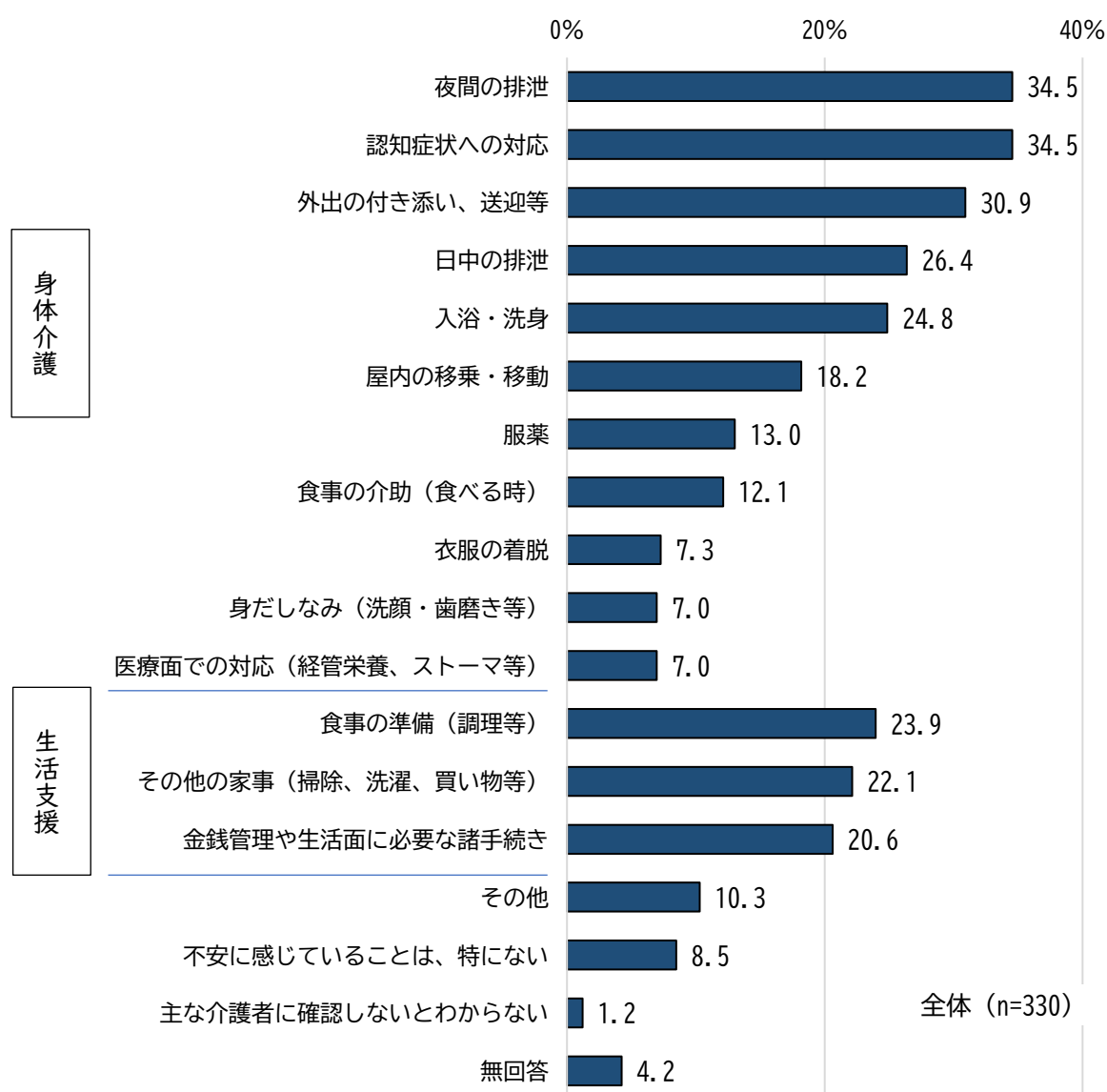
本人の年齢別では、いずれの年齢区分でも60代以上の割合が6割を超えています。95歳以上では、9割以上が60歳以上となっています。80歳以上の割合は、75～84歳で最も高く、85～94歳、95歳以上と年齢が高くなるほど、割合が低くなります。配偶者に先立たれたことが要因として考えられます。

(4) 問4 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可)



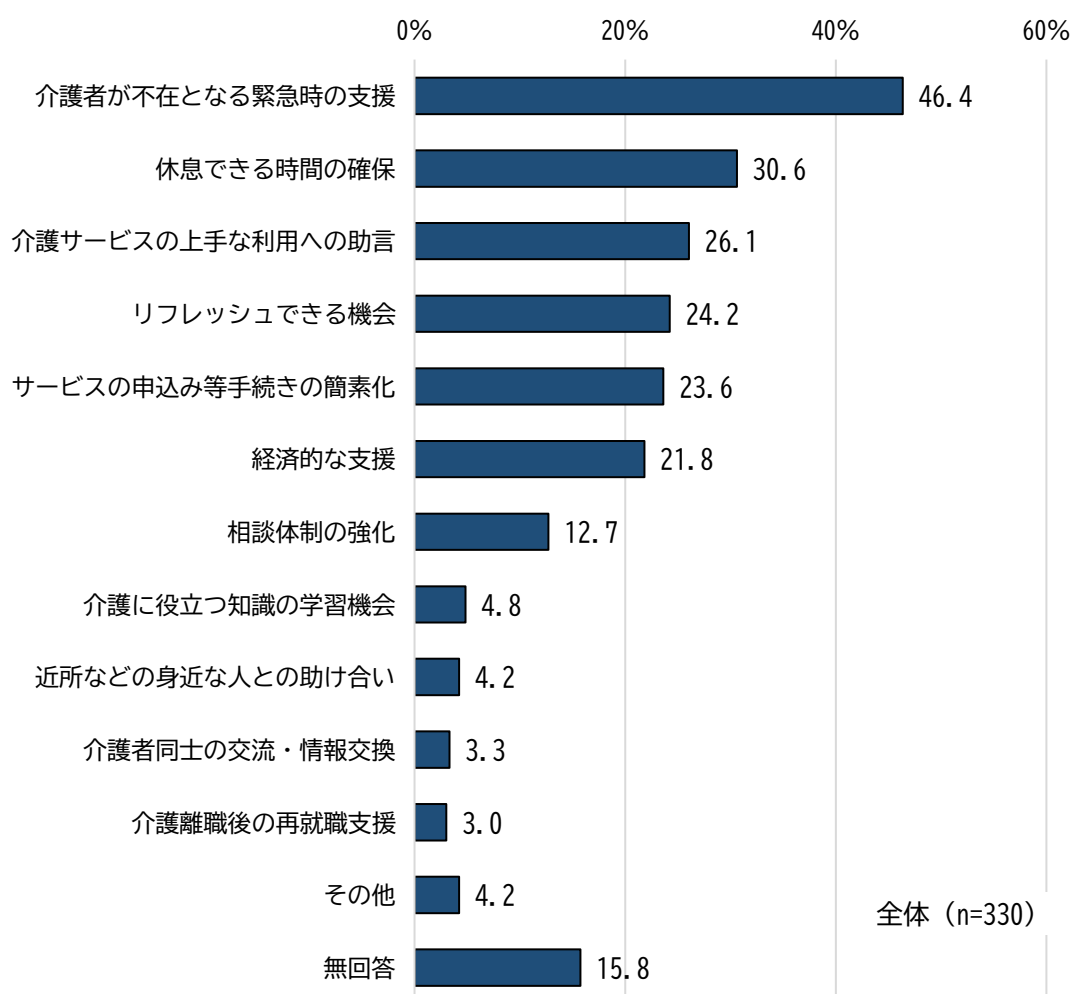
主な介護者の方が行っている介護の内容としては、「その他の家事」が78.2%で最も割合が高くなっています。生活支援である「食事の準備」(72.7%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(69.1%)も7割前後となっており割合が高くなっています。身体介護としては「外出の付き添い、送迎等」が73.0%で最も割合が高く、次いで「服薬」が53.3%、「衣服の着脱」が33.6%などとなっています。

(5) 問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)



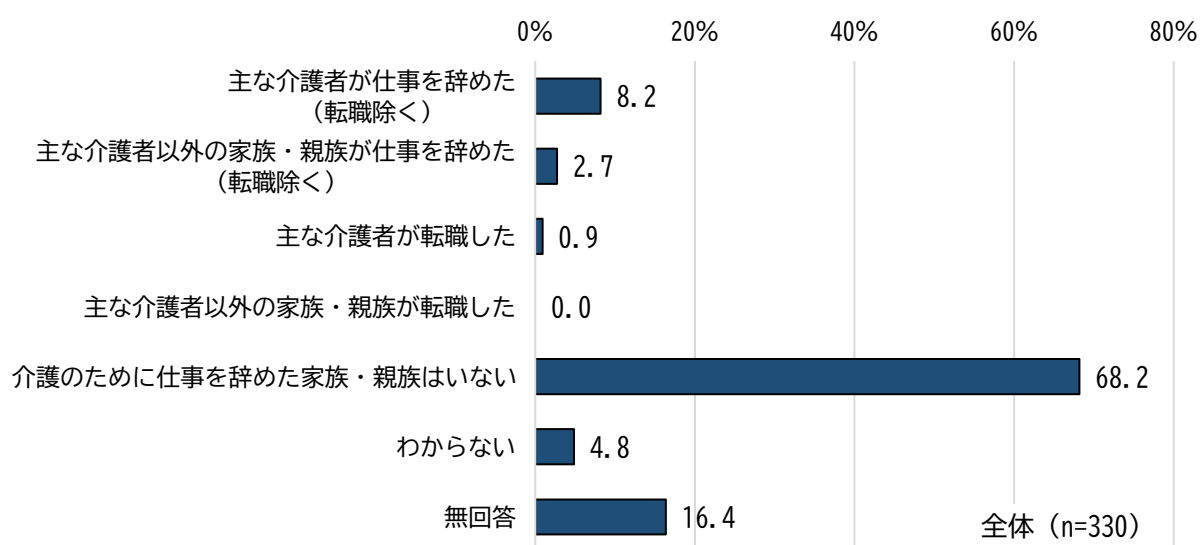
生活を継続する上で不安を感じる介護の内容については、「夜間の排泄」と「認知症状への対応」がいずれも 34.5%で割合が最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 30.9%、「日中の排泄」が 26.4%、「入浴・洗身」が 24.8%と続き、生活支援の項目よりも割合が高くなっています。

(6) 問6 在宅で家族を介護している方に対し必要だと思う支援について、ご回答ください(3 つまで選択可)



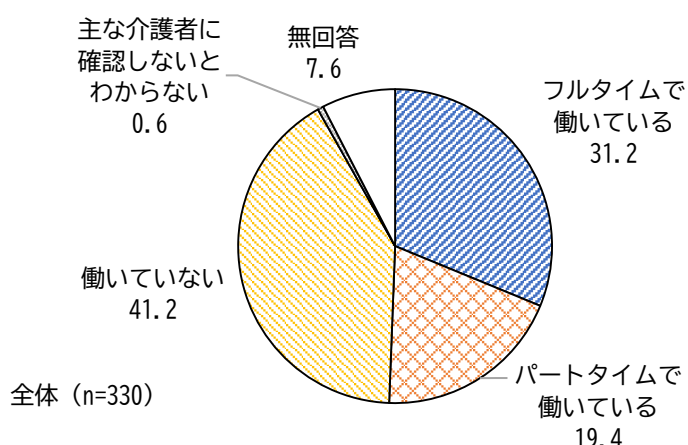
在宅での介護をしている人に必要な支援については、「介護者が不在となる緊急時の支援」が 46.4%で最も割合が高く、次いで「休息できる時間の確保」が 30.6%、「介護サービスの上手な利用への助言」が 26.1%、「リフレッシュできる機会」が 24.2%、「サービスの申込み等手続きの簡素化」が 23.6%、経済的な支援が 21.8%などとなっています。

(7) 問7 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)



過去1年の間に介護を理由に仕事を辞めた人については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」との回答が68.2%で最も割合が高くなっており、やめたり転職したりした人の割合は合計で11.8%と約1割になります。その内容は、「主な介護者が仕事を辞めた」が8.2%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた」が2.7%、「主な介護者が転職した」が0.9%となっています。

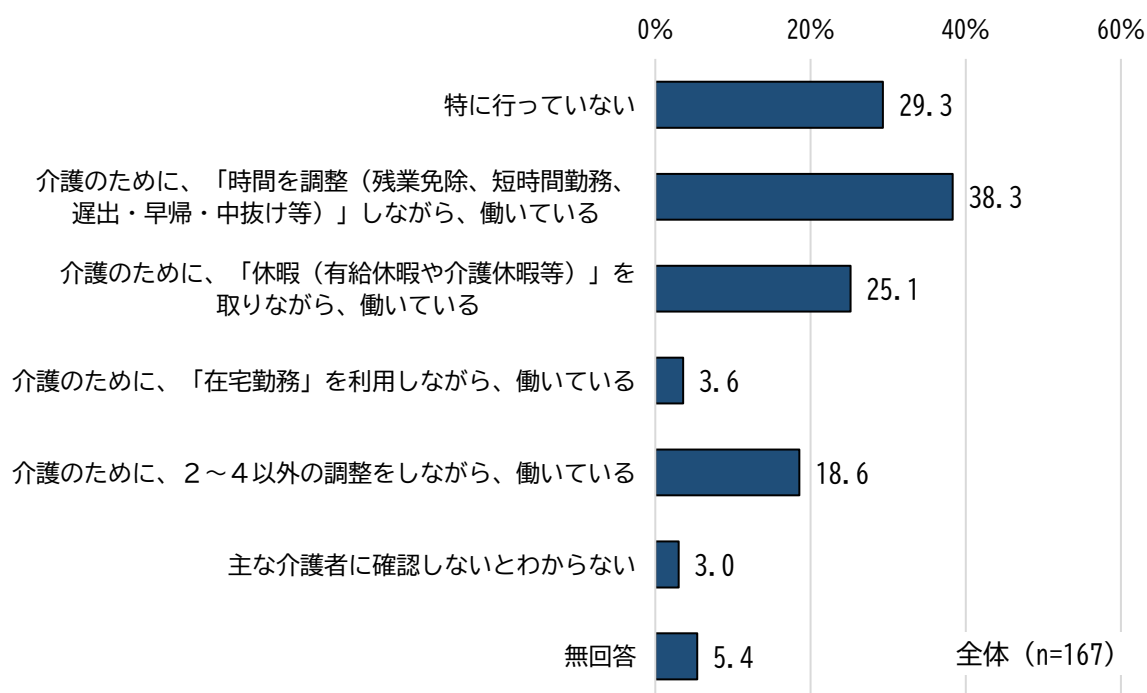
(8) 問8 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)



主な介護者の方の現在の勤務形態では、「フルタイムで働いている」が31.2%、「パートタイムで働いている」が19.4%で、合計すると50.6%と約半数の人が働いていることとなります。

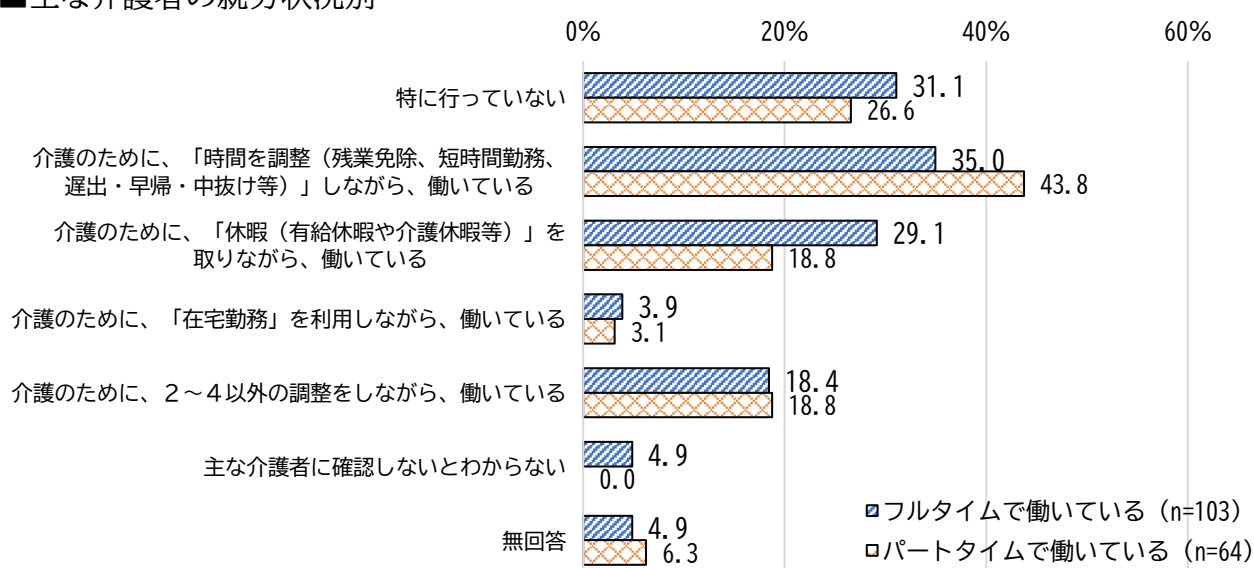
※以下の問9～問12については、問8で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した人を対象としています。

(9) 問9 問8で「1.フルタイムで働いている」「2.パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)



介護をするにあたっての働き方についての調整等については、「介護のために時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が 38.3%で最も割合が高くなっています。「特に行っていない」が 29.3%となっており、「特に行っていない」、「わからない」、「無回答」を除いた、何らかの調整をしている人の合計は 62.3%となっています。

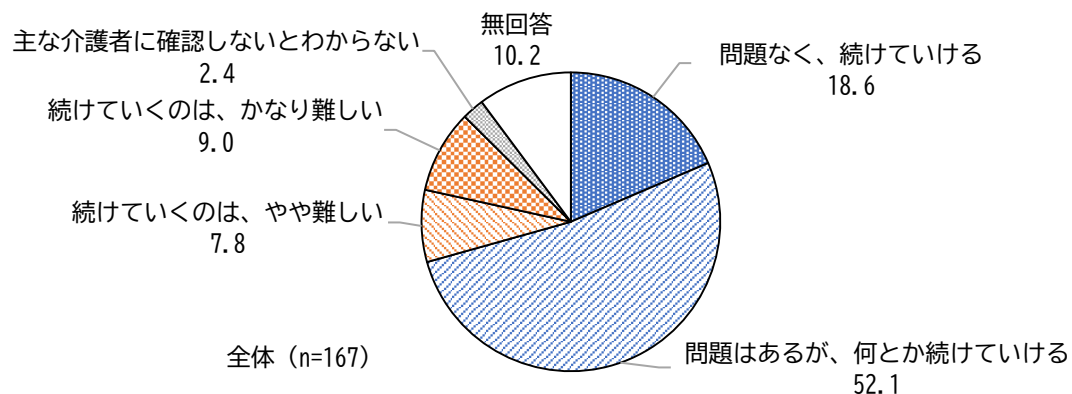
■主な介護者の就労状況別



主な介護者の就業状況別では、「介護のために時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」はパートタイム勤務者で割合が高く、「介護のために、「時間を調整

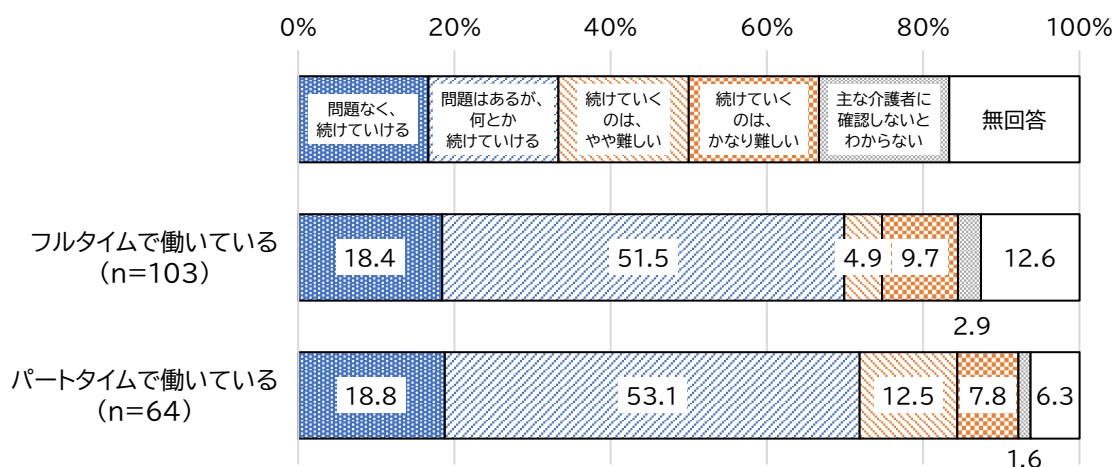
(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」、「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」は、フルタイム勤務者で割合が高くなっています。

(10)問 10 問 8 で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)



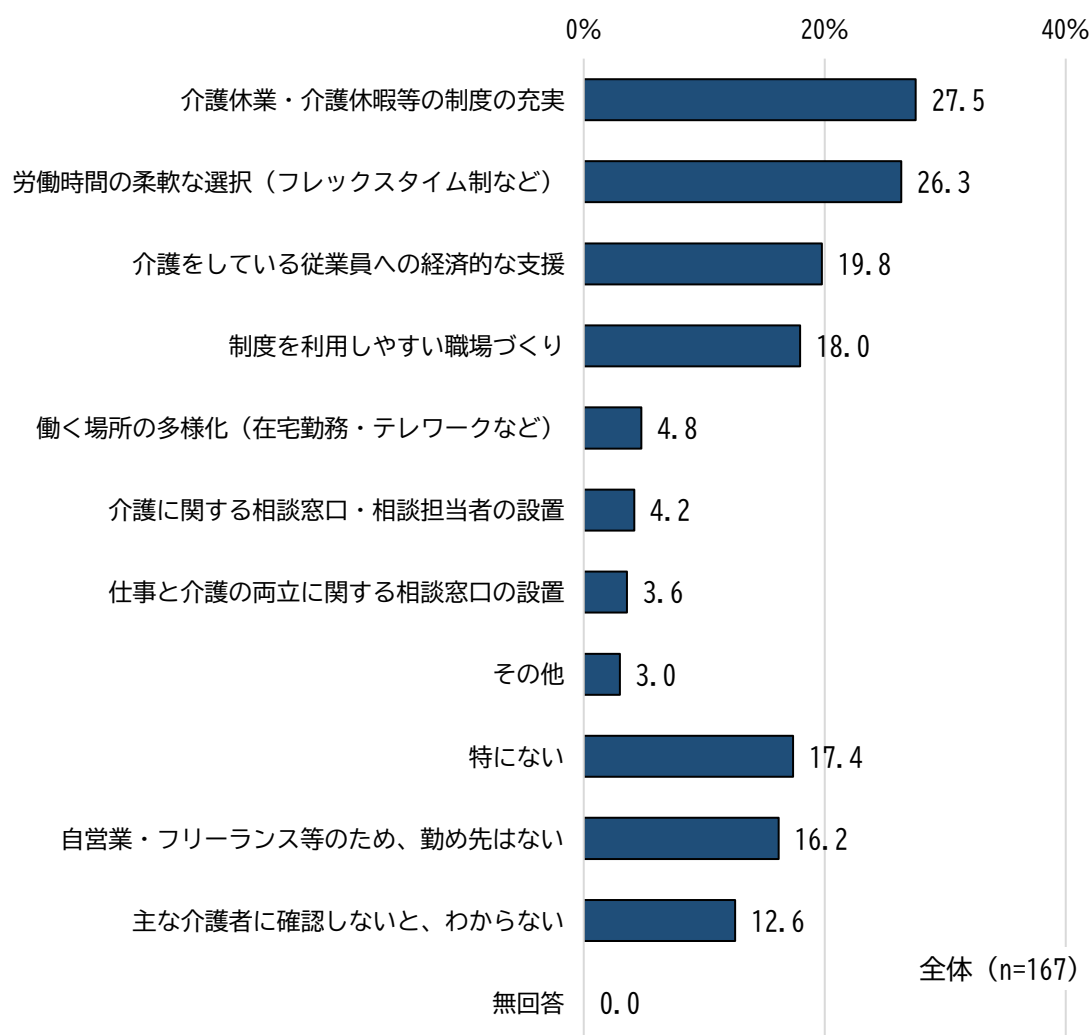
今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、「問題なく、続けていける」が 18.6%、「問題はあるが、何とか続けていける」が 52.1%で合計 70.7%の人が働き続けていけると回答しています。「続けていくのは、かなり難しい」が 9.0%、「続けていくのは、やや難しい」が 7.8%で合計 16.8%の人が働き続けるのは難しいと回答しています。

■主な介護者の就労状況別



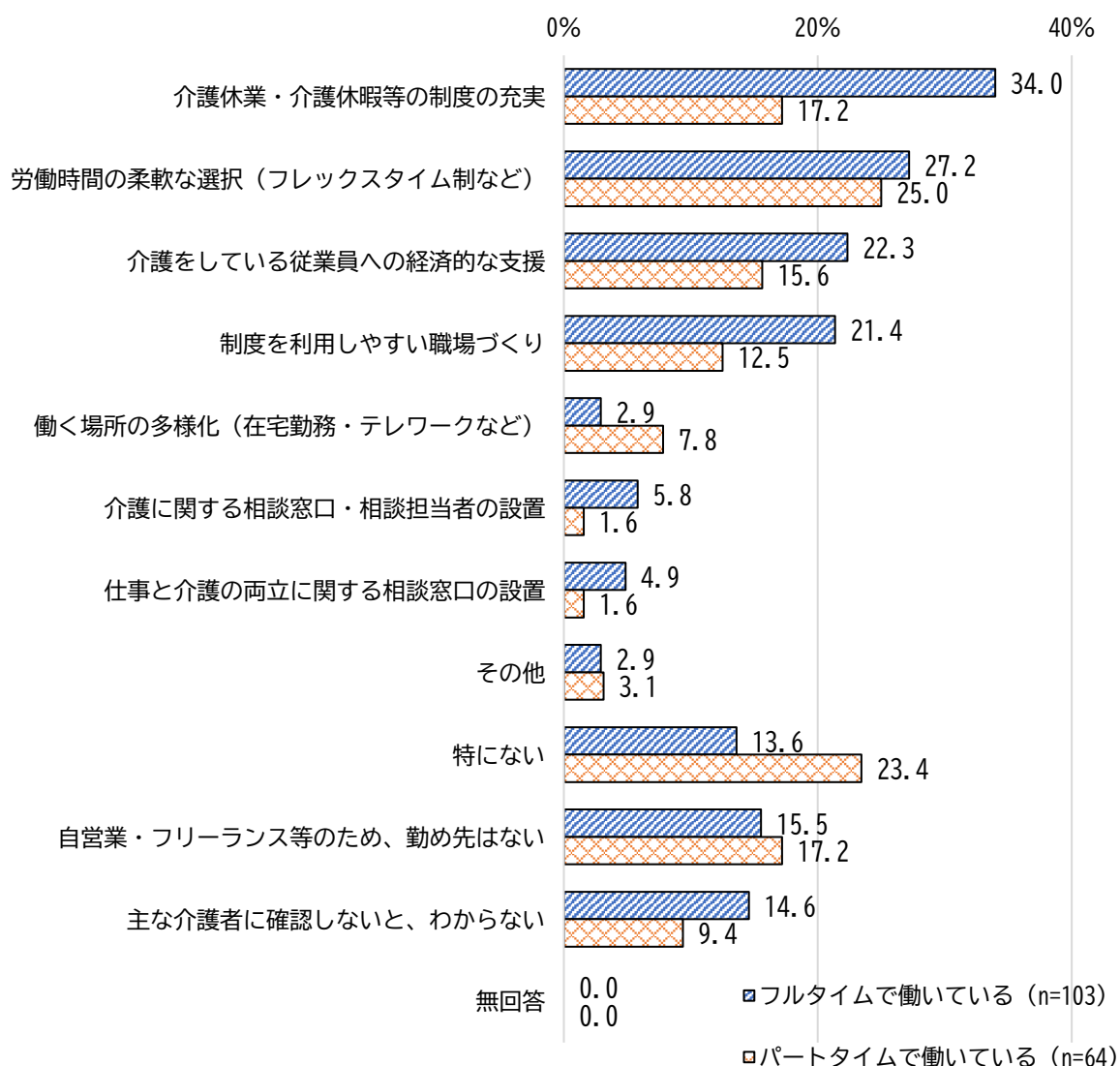
主な介護者の就労状況別では、「続けていくのは、やや難しい」の割合は、フルタイム勤務者より、パートタイム勤務で高くなっていますが、全体として大きな差はみられません。

(11) 問 11 問 8 で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3 つまで選択可)



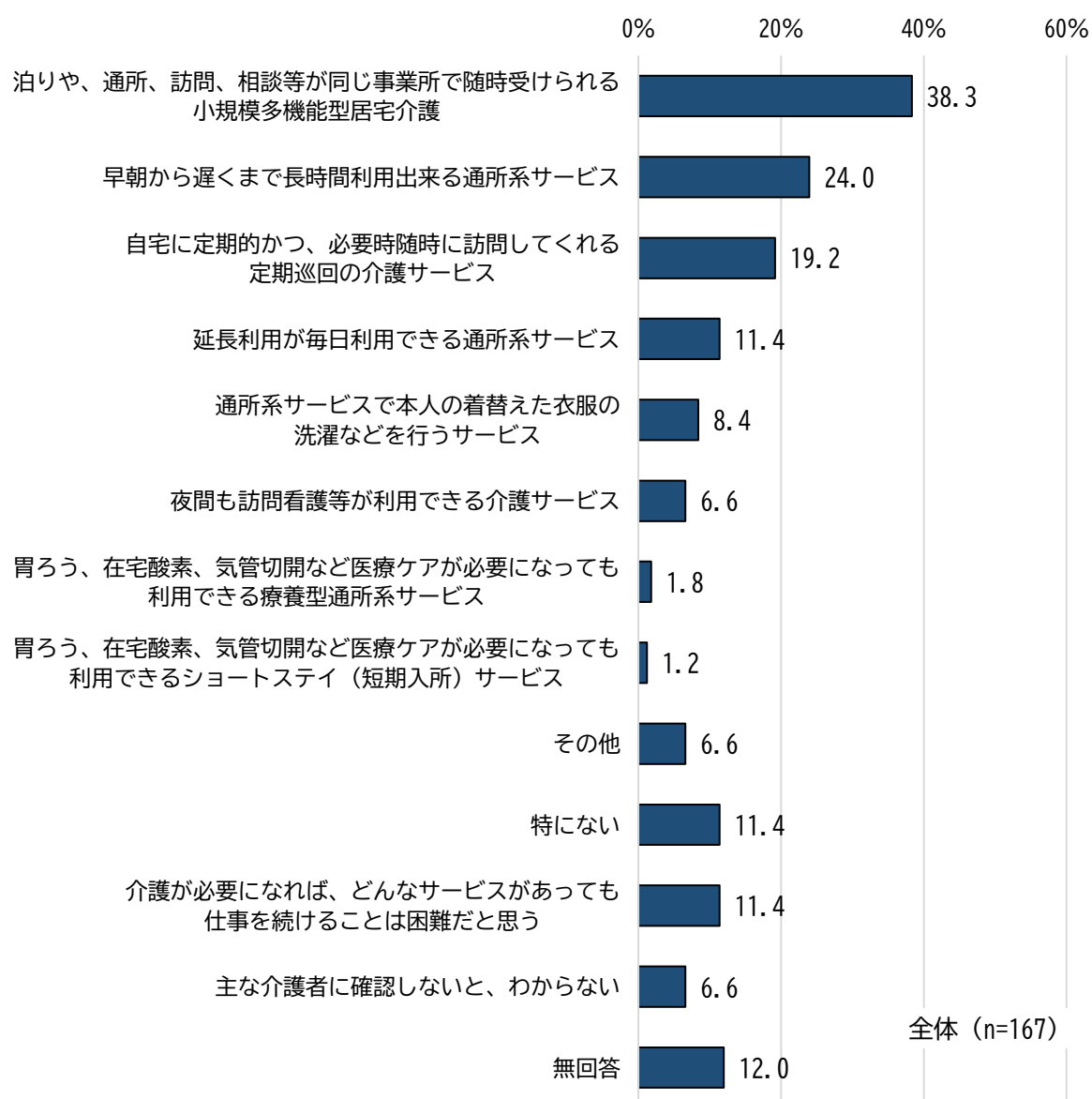
仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 27.5%で最も割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が 26.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 19.8%、「制度を利用しやすい職場づくり」が 18.0%などとなっています。

■主な介護者の就労状況別



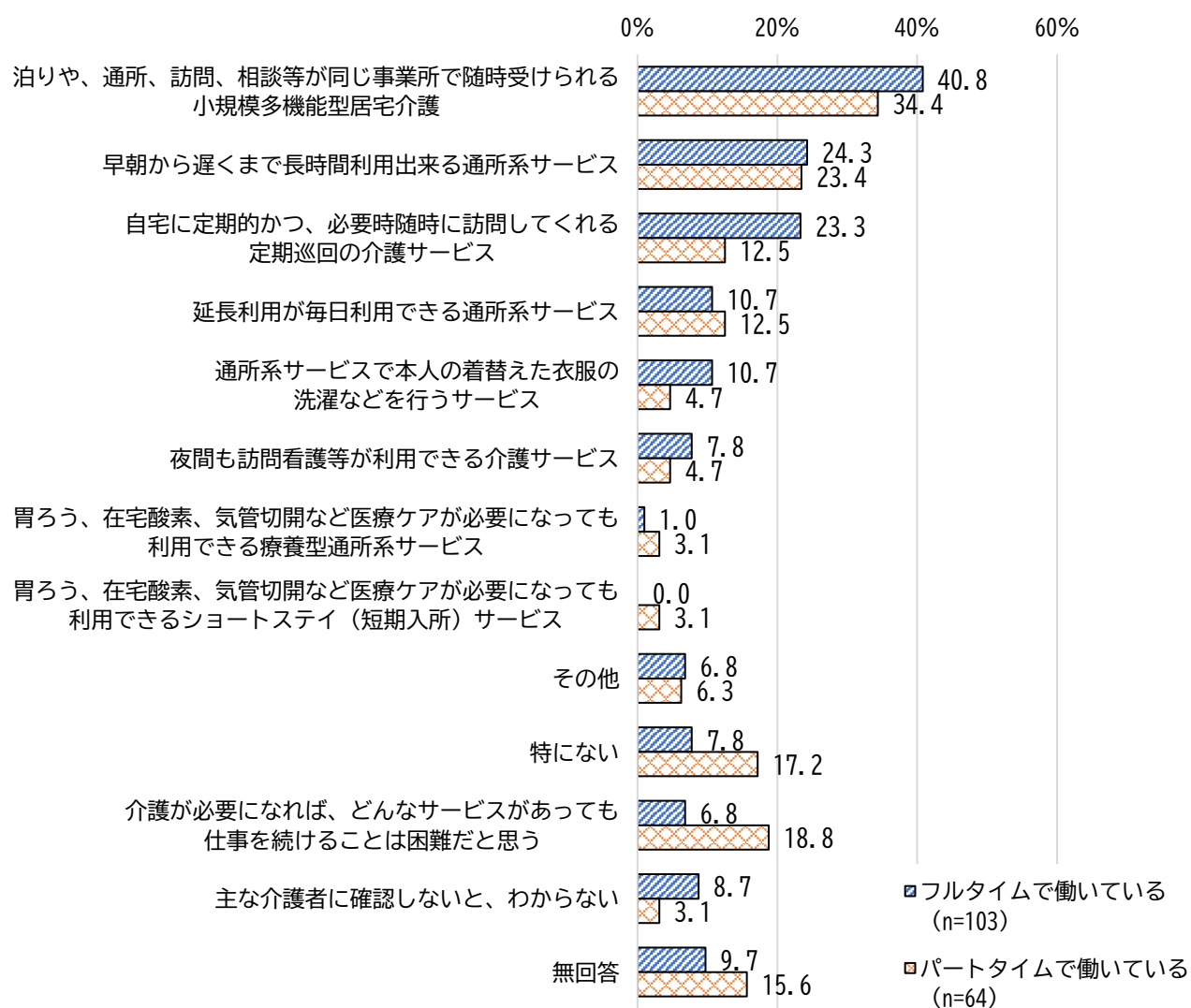
主な介護者の就労状況別では、パートタイム勤務者と比較してフルタイム勤務者は、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「介護をしている従業員への経済的な支援」、「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が高くなっています。フルタイム勤務者と比較してパートタイム勤務者は「特になし」の割合が高くなっており、フルタイム勤務者に対する支援が、より強く求められています。

(12) 問 12 問 8 で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、どのような介護等サービスがあれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3 つまで選択可)



仕事と介護の両立に効果がある介護等サービスについては、「泊りや、通所、訪問、相談等が同じ事業所で随時受けられる小規模多機能型居宅介護」が 38.3%で最も割合が高く、次いで「早朝から遅くまで長時間利用出来る通所系サービス」が 24.0%、「自宅に定期的かつ、必要時随時に訪問してくれる定期巡回の介護サービス」が 19.2%などとなっています。

■主な介護者の就労状況別

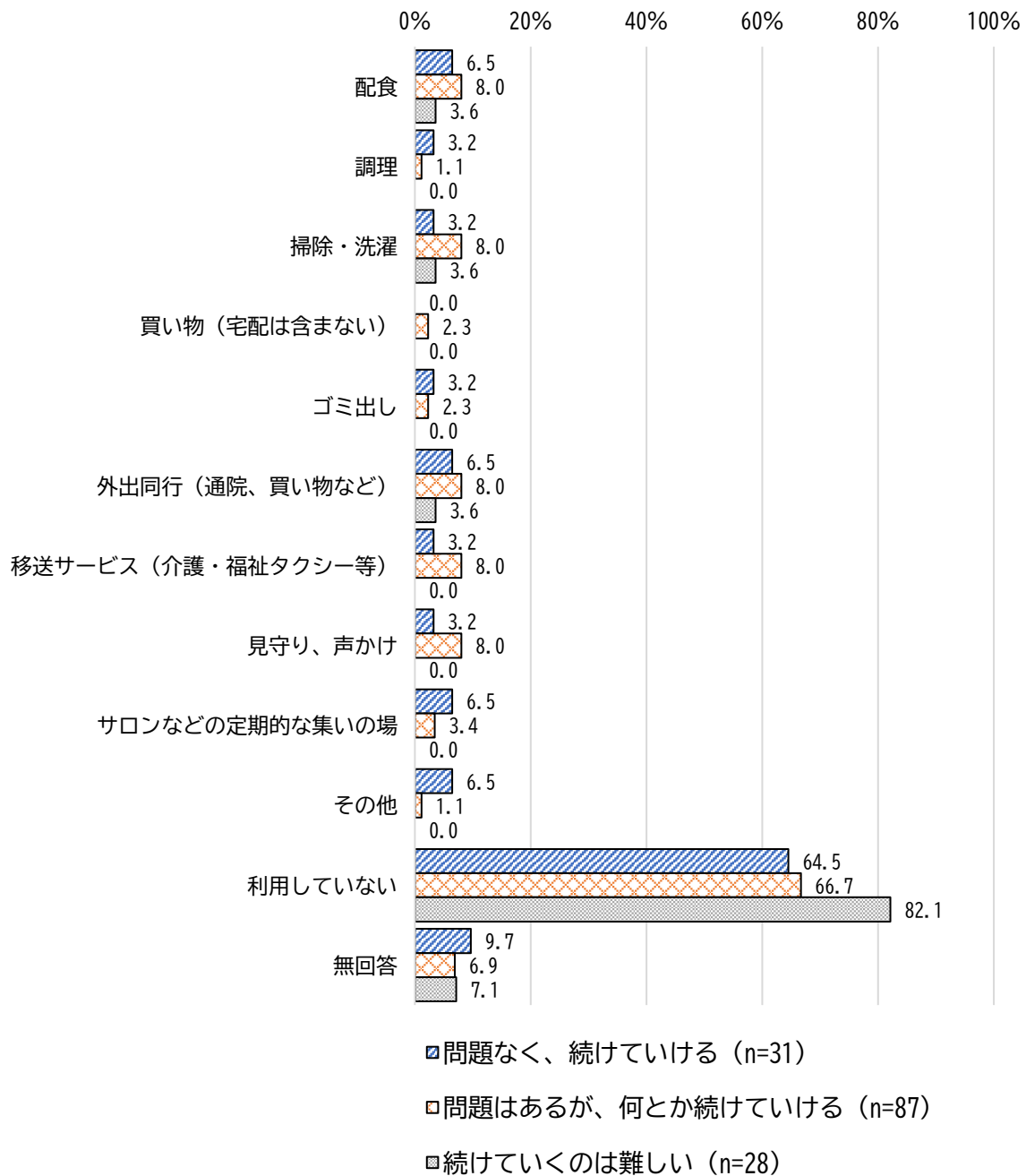


主な介護者の就労状況別では、パートタイム勤務者と比較してフルタイム勤務者は、「泊りや、通所、訪問、相談等が同じ事業所で随時受けられる小規模多機能型居宅介護」、「自宅に定期的かつ、必要時随時に訪問してくれる定期巡回の介護サービス」、「通所系サービスで本人の着替えた衣服の洗濯などを行うサービス」といった点の割合が高く差がみられました。

〈参考〉介護離職について

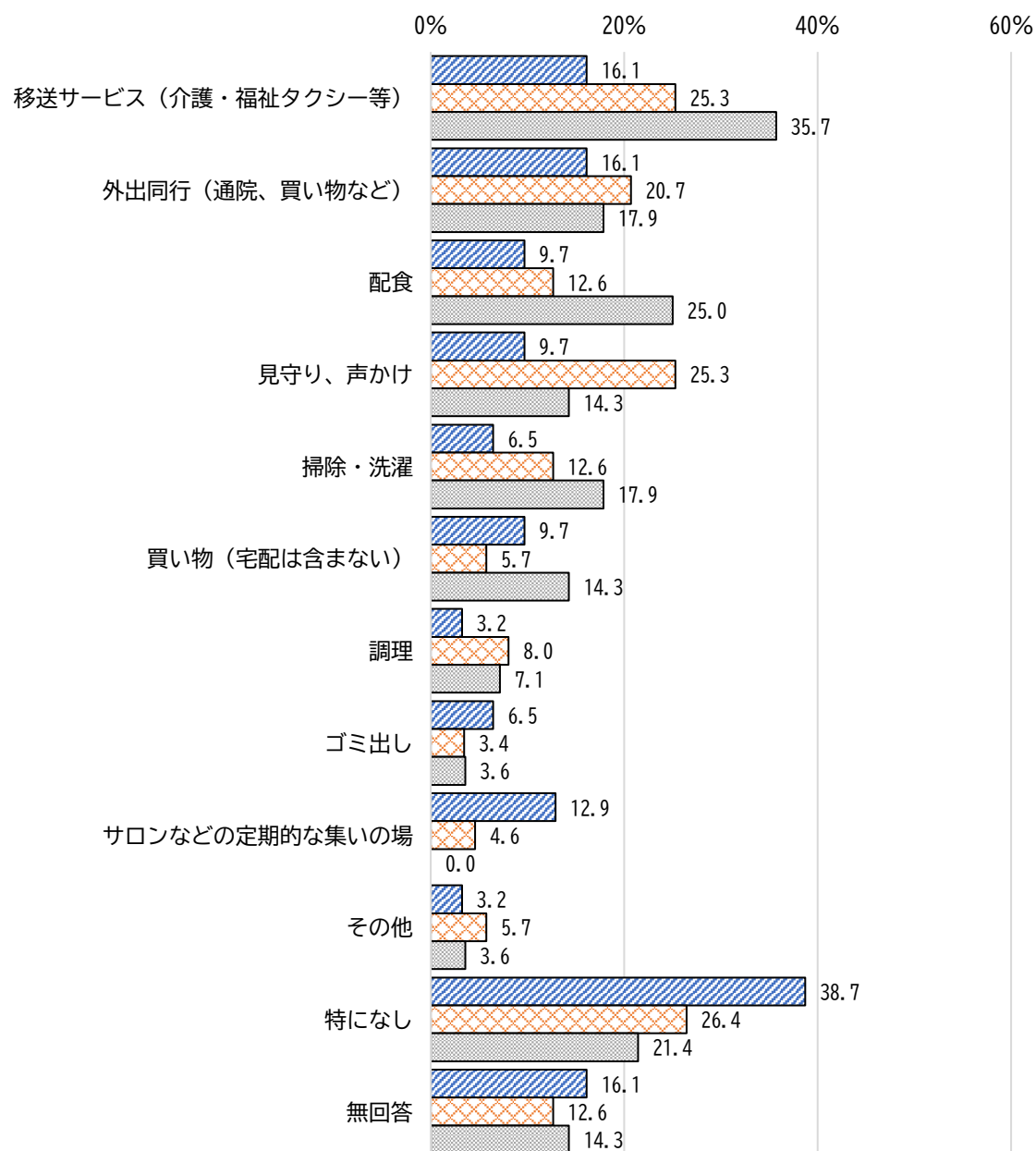
介護離職の減少施策の参考とするため、問 10 の回答により、「問題はなく、何とか続けていける」、「問題はあるが、何とか続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を、「続けていくのは難しい」として、集計しています。

1 問5 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください(複数選択可)



仕事を続けていける人と比較して、続けていくのは難しい人は、介護保険サービス以外の支援・サービスを「利用していない」と答えた割合が82.1%と高くなっています。

1 問6 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)



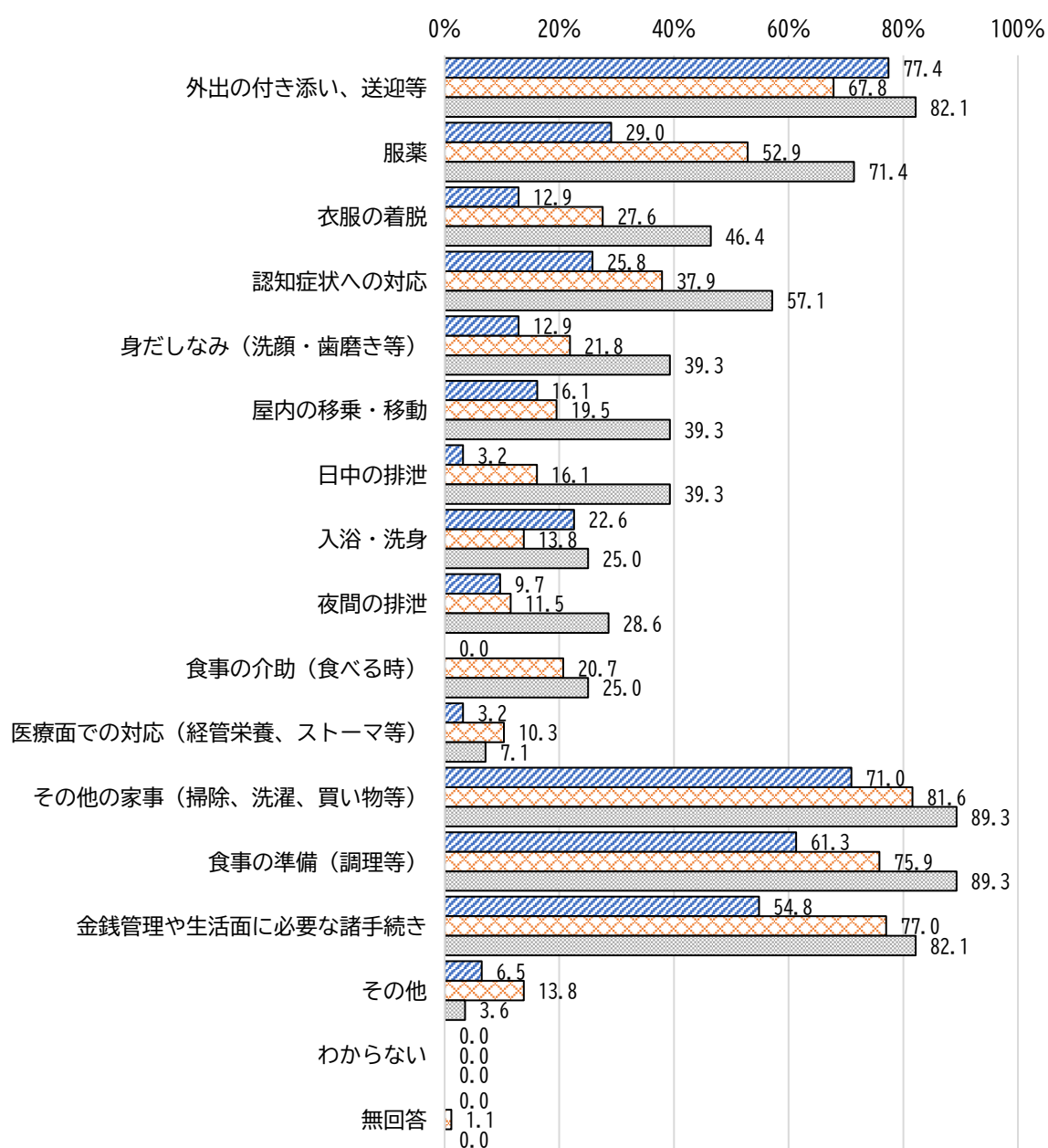
□問題なく、続けていける (n=31)

□問題はあるが、何とか続けていける (n=87)

□続けていくのは難しい (n=28)

仕事を続けていける人と比較して、続けていくのは難しい人は、多くの項目で割合が高くなっています。特に「移送サービス」、「配食」で割合が高く、差が大きくなっています。

2 問4 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可)



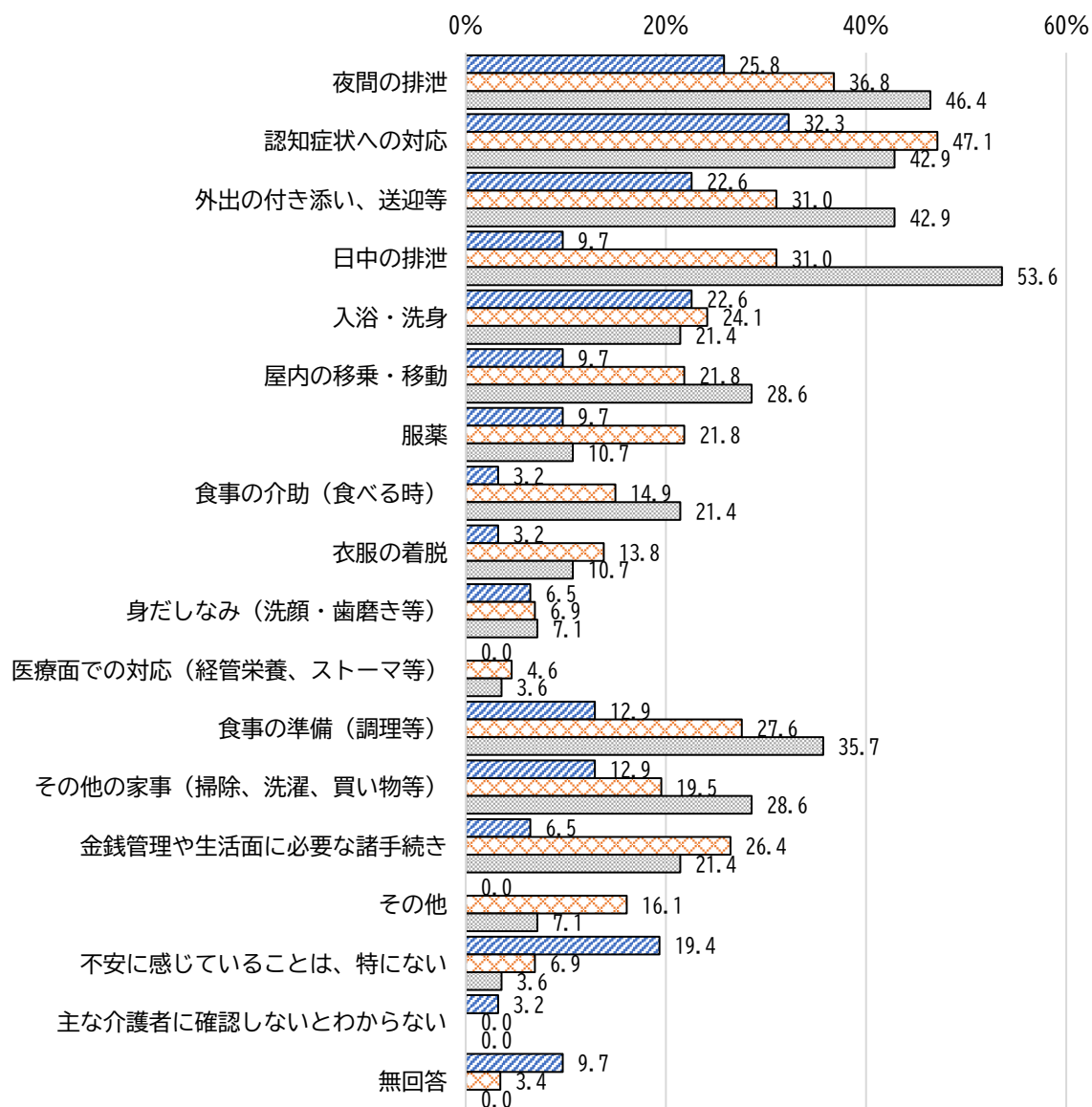
■問題なく、続けていける (n=31)

□問題はあるが、何とか続けていける (n=87)

□続けていくのは難しい (n=28)

仕事を続けていける人と比較して、続けていくのは難しい人は、多くの項目で割合が高くなっています。特に「服薬」、「認知症への対応」の割合が高く、差が大きくなっています。

2 問5 現在生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）



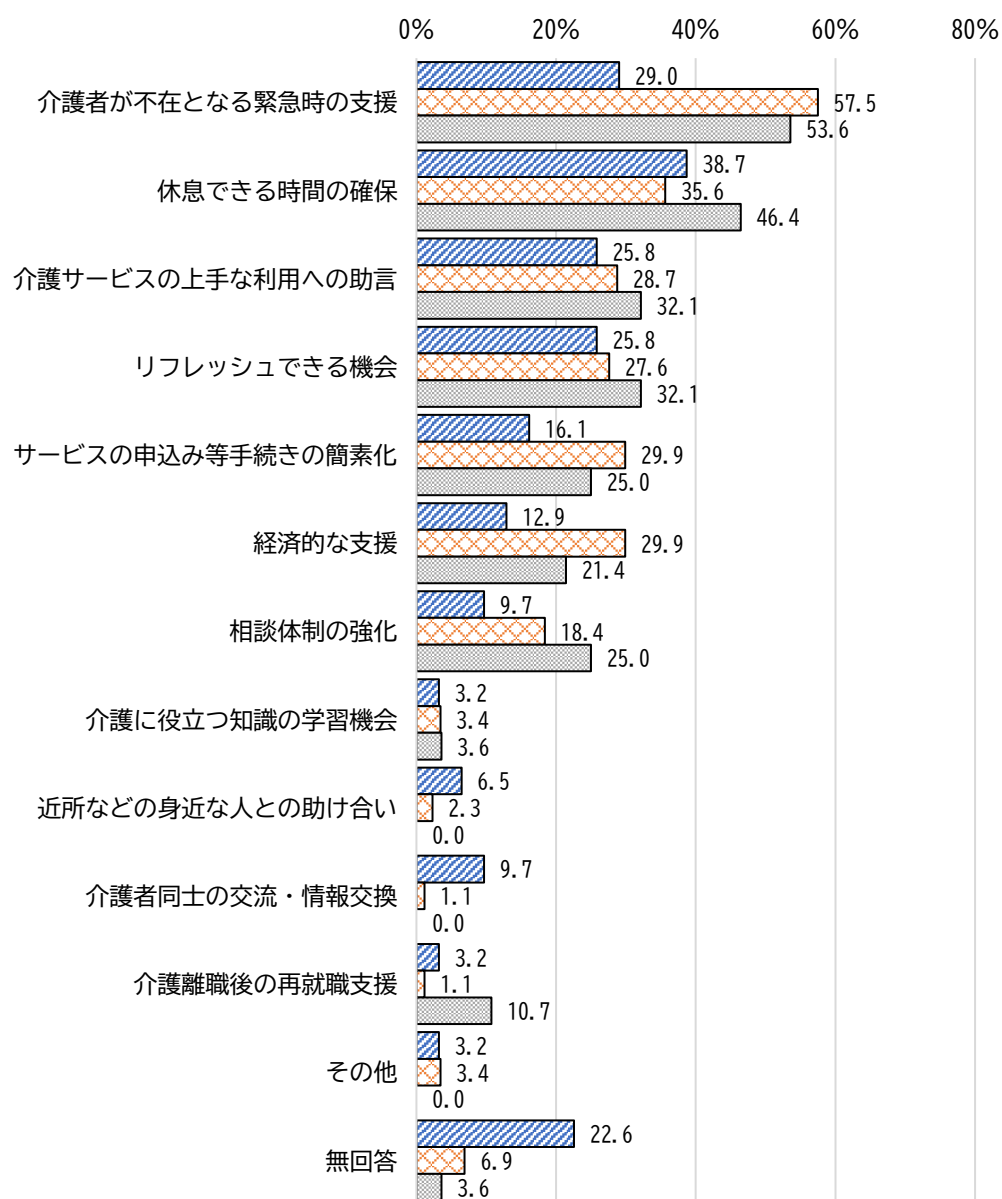
■問題なく、続けていける（n=31）

▨問題はあるが、何とか続けていける（n=87）

□続けていくのは難しい（n=28）

仕事を続けていける人と比較して、続けていくのは難しい人は、多くの項目で割合が高くなっています。特に「日中の排泄」、「夜間の排泄」の排泄についての割合が高く、差が大きくなっています。排泄に関する介護が必要となる状況が、仕事を続けることが難しくなることに大きく影響している可能性があります。

2 問6 在宅で家族を介護している方に対し必要だと思う支援について、ご回答ください（3つまで選択可）



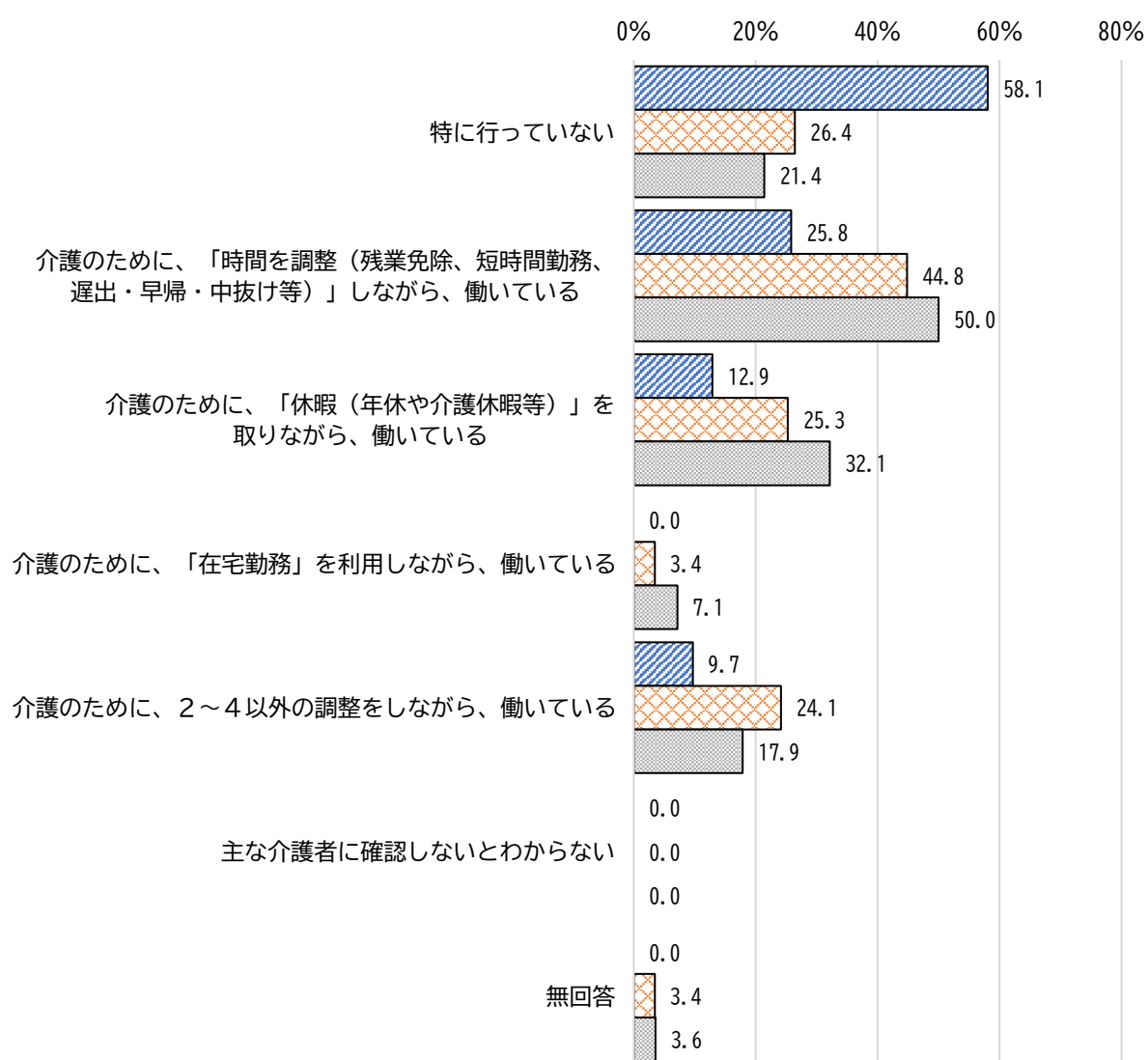
■問題なく、続けていける (n=31)

□問題はあるが、何とか続けていける (n=87)

□続けていくのは難しい (n=28)

仕事を続けていける人と比較して、続けていくのは難しい人は、いくつかの項目で割合が高くなっています。特に「休息できる時間の確保」で差が大きく、絶え間のない介護の状況が伺えます。

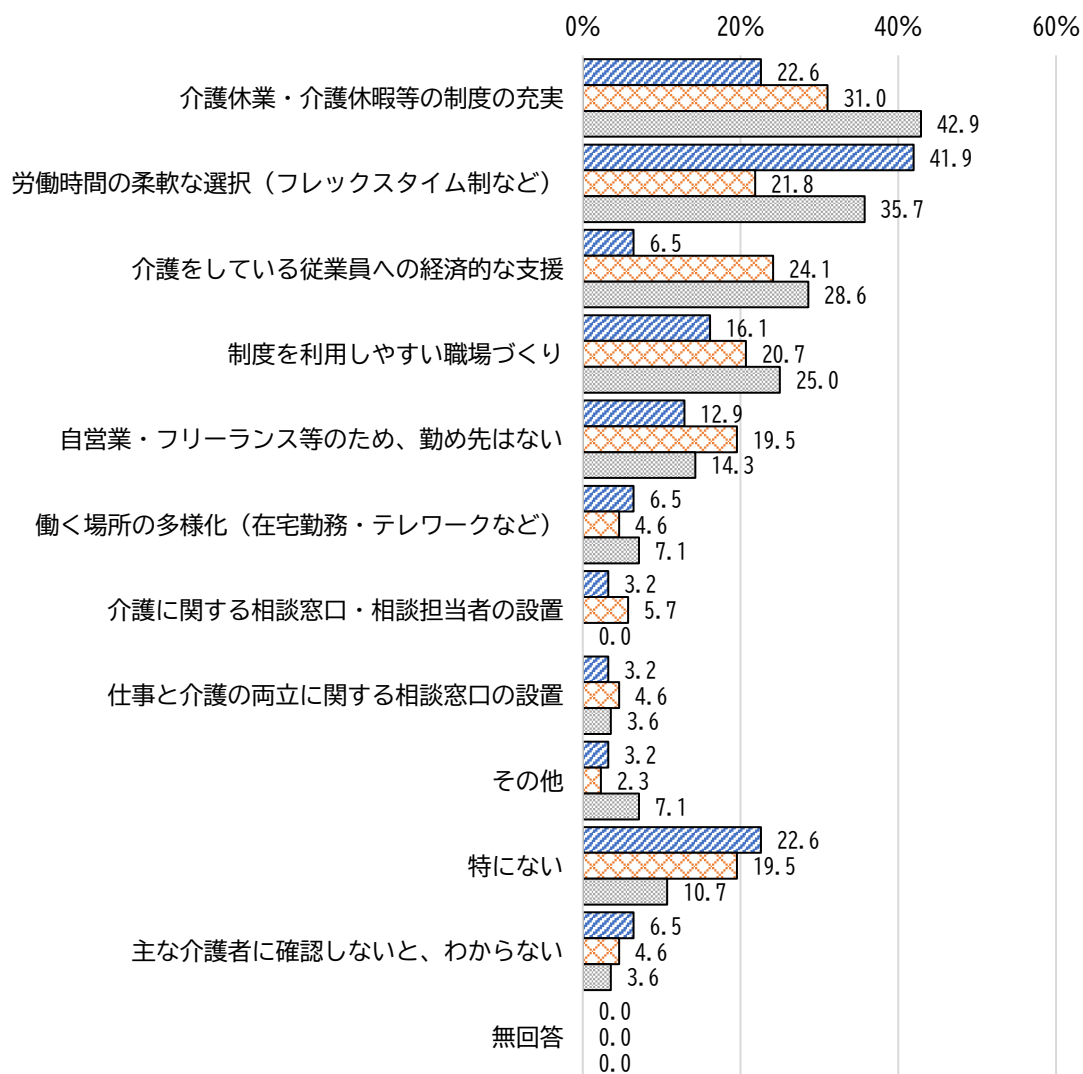
3 問9 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか（複数選択可）



- 問題なく、続けていける (n=31)
- 問題はあるが、何とか続けていける (n=87)
- 続けていくのは難しい (n=28)

仕事を続けていける人と比較して、続けていくのは難しい人は、「特に行っていない」の割合が低く、何らかの調整等を行っている割合が高くなっています。特に「介護のために、「時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が50.0%と、続けていくのは難しい人では、最も割合が高い項目となっています。

3 問 11 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）調整等をしていますか（複数選択可）



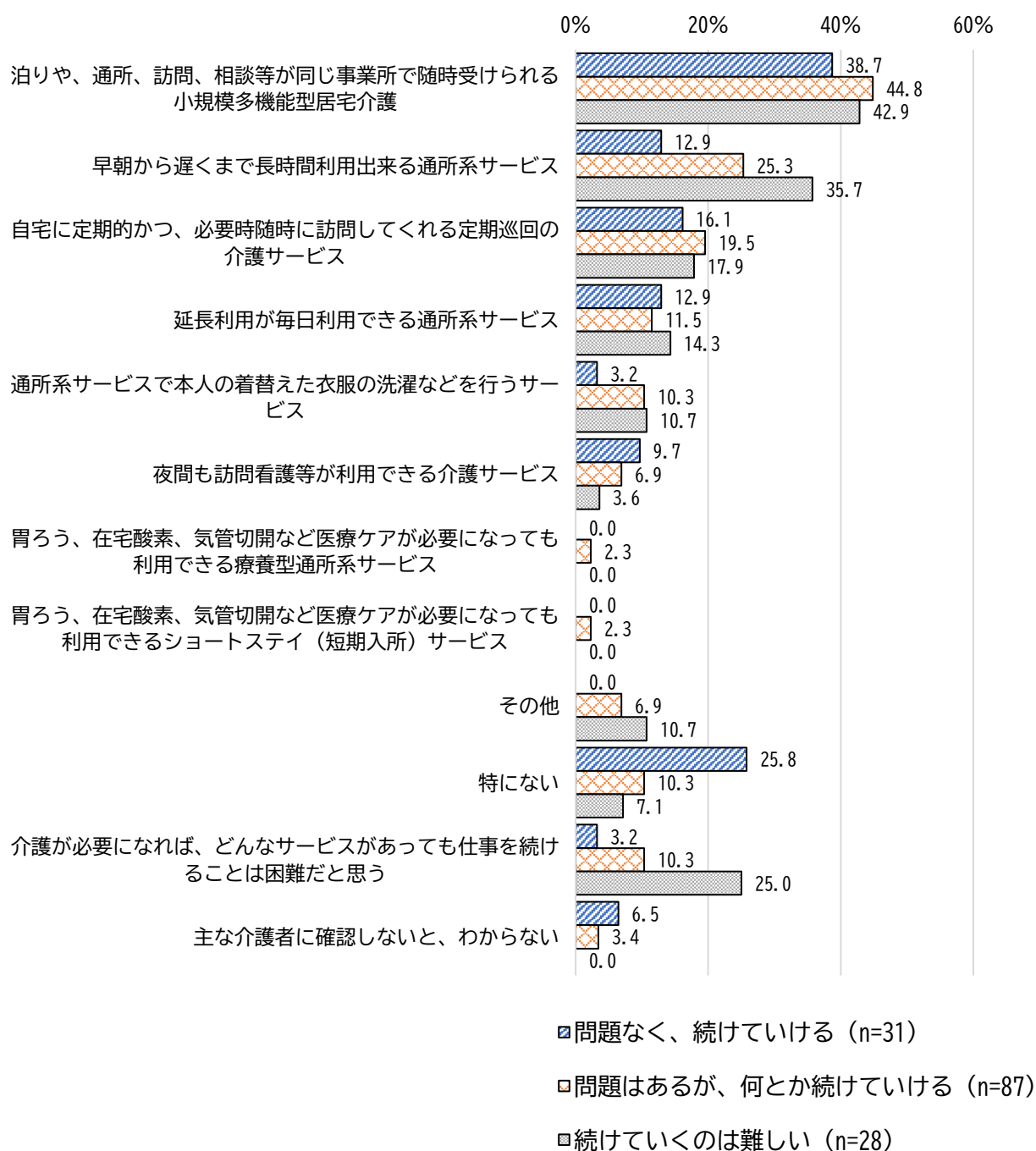
■問題なく、続けていける（n=31）

□問題はあるが、何とか続けていける（n=87）

□続けていくのは難しい（n=28）

仕事を続けていける人と比較して、続けていくのは難しい人は、多くの項目で割合が高くなっています。特に「介護休業・介護休暇等の制度の充実」で割合が高く、差が大きくなっています。

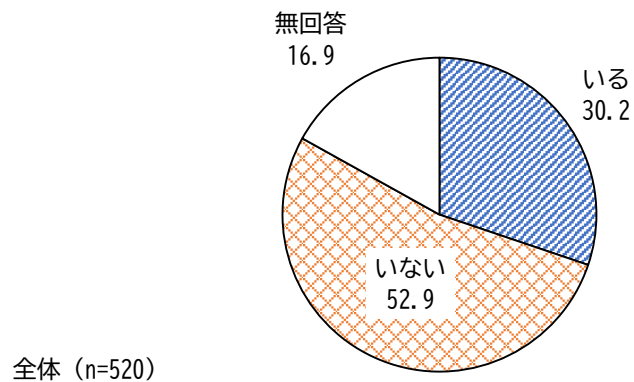
3 問 12 主な介護者の方は、どのような介護等サービスがあれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）



仕事を続けていける人と比較して、続けていくのは難しい人は、「早朝から遅くまで長時間利用出来る通所系サービス」で割合が高く差が大きくなっています。また、「介護が必要になれば、どんなサービスがあっても仕事を続けることは困難だと思う」の割合も高く、介護の負担の大きさが伺えます。

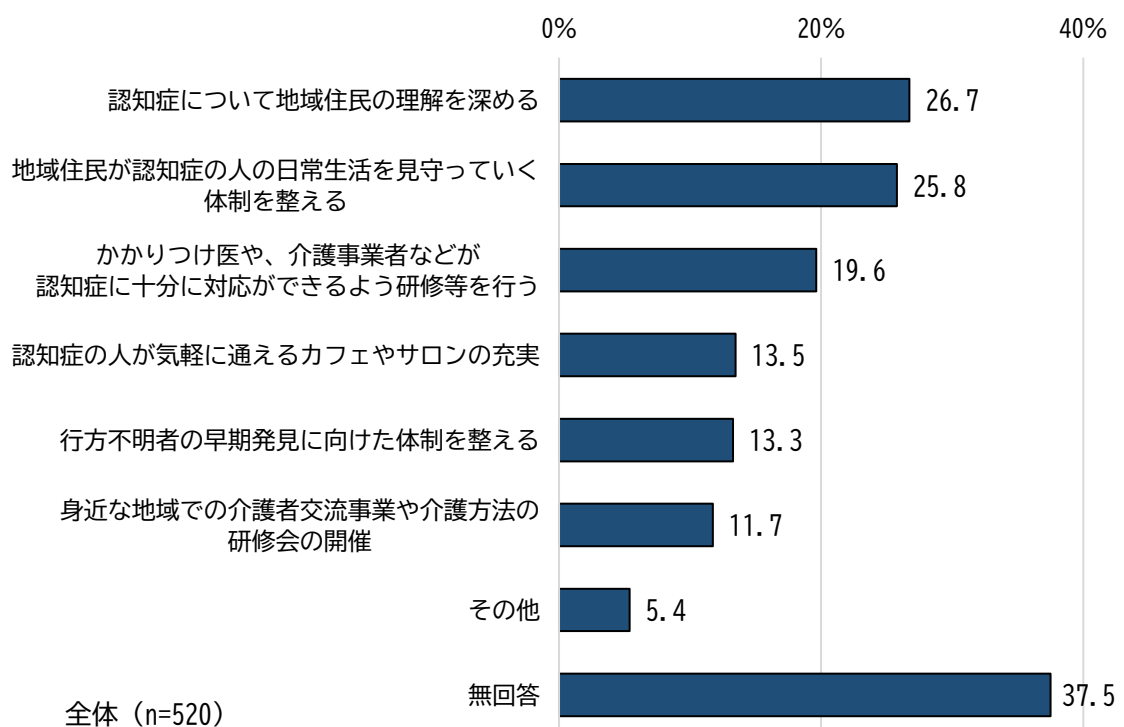
3. 認知症について

(1) 問1 あなたのご家族に認知症と診断された方はいますか(○はひとつ)



家族に認知症の診断を受けた人の有無については、「いる」が30.2%となっています。

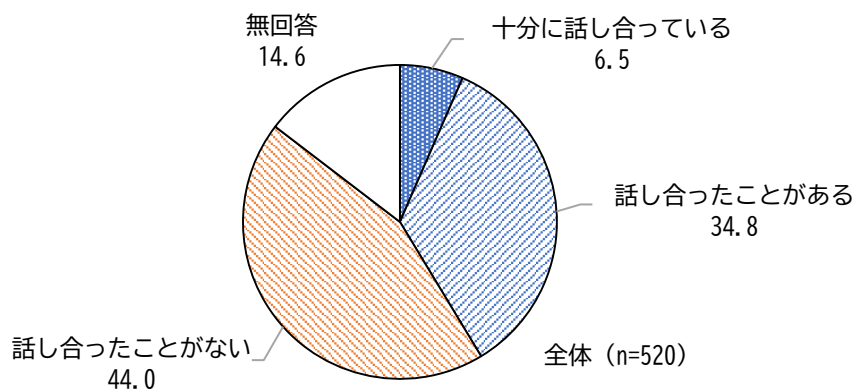
(2) 問2 今後、認知症に関する施策を進めていく上で、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか(○は3つまで)



認知症に関する施策での重点としては、「認知症について地域住民の理解を深める」(26.7%)と、「地域住民が認知症の人の日常生活を見守っていく体制を整える」(25.8%)が2割台で割合が高く、次いで「かかりつけ医や、介護事業者などが認知症に十分に対応ができるよう研修等を行う」が19.6%などとなっています。

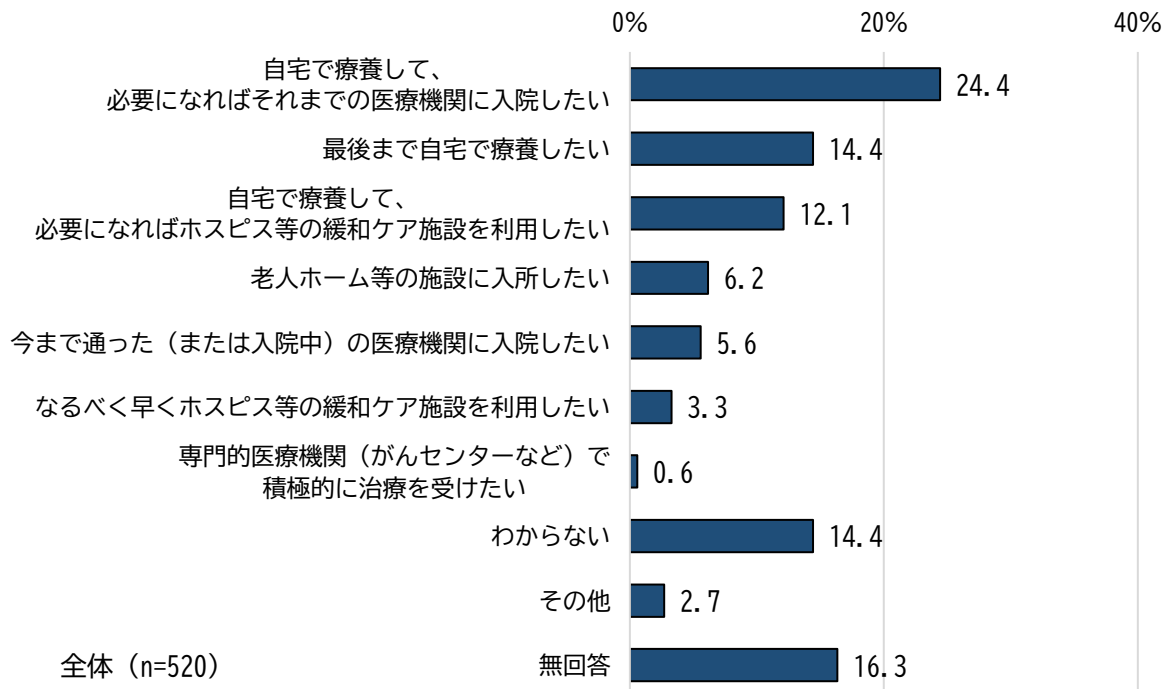
4. 終末期の療養について

(1) 問1 あなたやあなたの家族の終末期(治る見込みがなく余命わずかの状態)の延命治療について、これまで話し合ったことがありますか(○はひとつ)



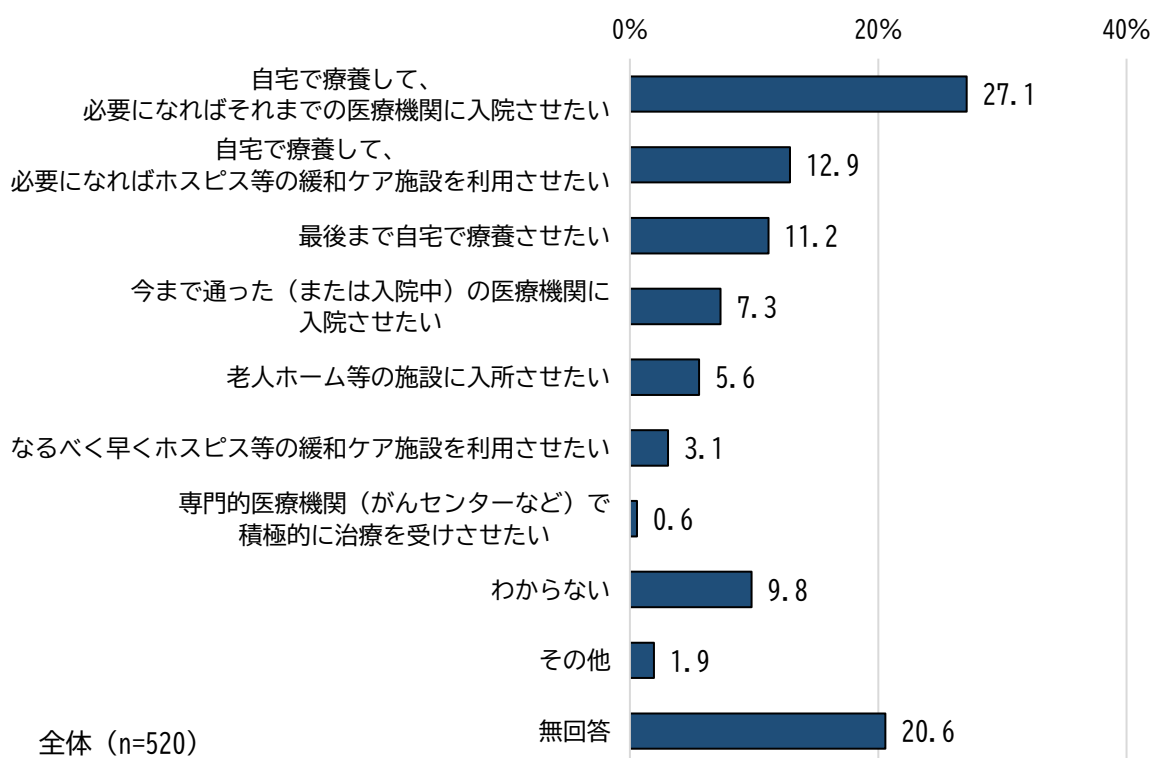
終末期の延命治療についての話し合いについては、「十分に話し合っている」が、6.5%、「話し合ったことがある」が34.8%、合計で41.3%と約4割の人が話し合ったことがあると答えています。

(2) 問2 終末期と告げられた場合、あなたはどこで最期を迎えたいと思いますか(○はひとつ)



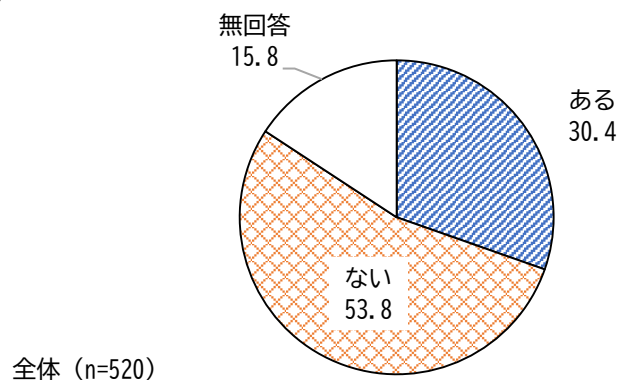
終末期と告げられた場合、最期を迎えたい場所については、「自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい」が24.4%で最も割合が高くなっています。「わからない」、「無回答」を除くと、次に「最後まで自宅で療養したい」(14.4%)、「自宅で療養して、必要になればホスピス等の緩和ケア施設を利用したい」(12.1%)の自宅優先が続き、自宅優先は合計で51.0%と約半数となります。

(3) 問3 あなたの家族が、終末期と告げられた場合、あなたはどこで最期を迎えさせたいと思いますか



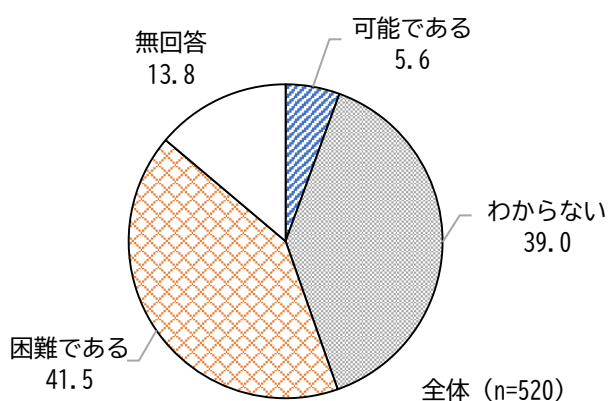
家族が終末期と告げられた場合、最期を迎えさせたい場所については、「自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院させたい」が 27.1%で最も割合が高くなっています。「無回答」を除くと、次に「自宅で療養して、必要になればホスピス等の緩和ケア施設を利用させたい」(12.9%)、「最後まで自宅で療養させたい」(11.2%)の自宅優先が続く、自宅優先は合計で 51.2%と約半数となり、看取りをする側とされる側と、大きな差はみられませんでした。

(4) 問4 あなたは、これまでに家族の在宅の介護での看取りの経験はありますか
(○はひとつ)



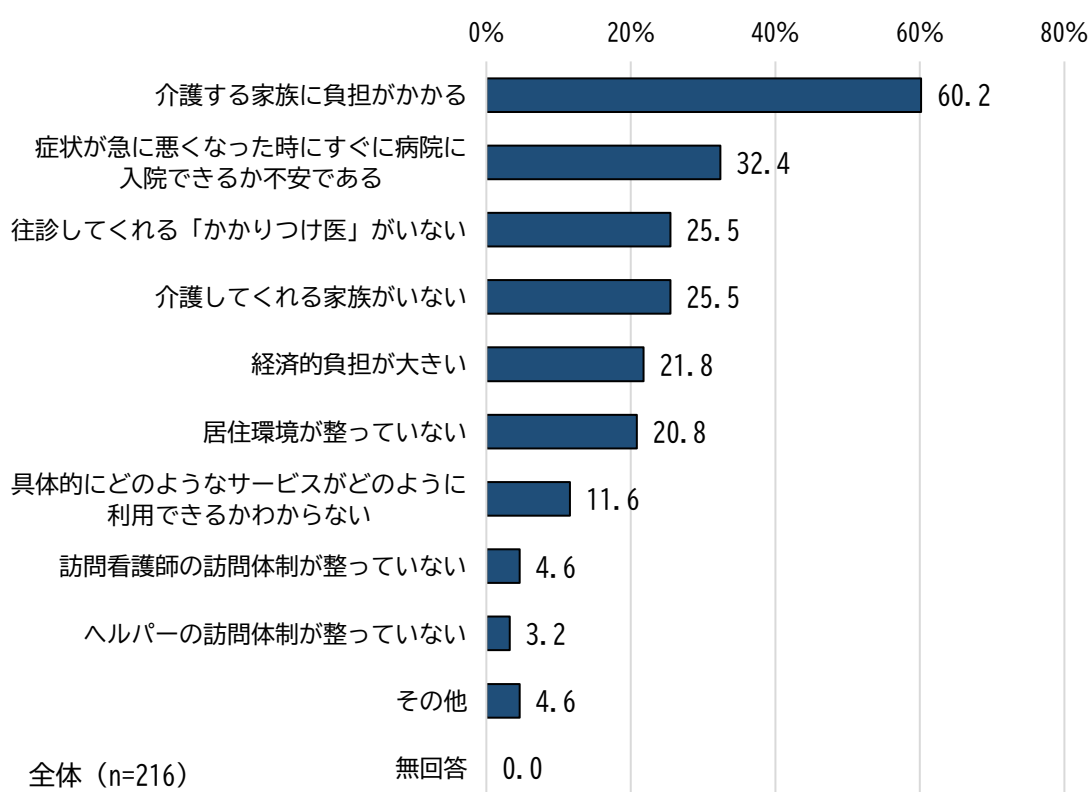
家族の在宅介護での看取りの経験の有無については、「ある」が 30.4%となっています。

(5) 問5 終末期において、あなたやあなたの家族は自宅で最期まで療養できると思いますか



終末期において、自宅で最後まで療養できるかについては、「困難である」が 41.5%で約 4 割を占めています。「可能である」はわずかに 5.6%で、問2や問 3 で答えた内容と、理想と現実の差が伺えます。

(6) 問6 「問5」で「3. 困難である」と答えた方にお聞きします。自宅で最期まで療養することが難しいと思う理由は何ですか



自宅で最期まで療養することが難しいと思う理由については、「介護する家族に負担がかかる」が60.2%で最も割合が高く、次いで、「症状が急に悪くなった時にすぐに病院に入院できるか不安である」が 32.4%、「往診してくれる「かかりつけ医」がいない」と「介護してくれる家族がいない」が 25.5%などとなっています。

鶴岡市 在宅介護実態調査報告書

発行年月 令和8年3月
発行 鶴岡市役所
編集 鶴岡市 長寿介護課
〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9番25号
TEL : 0235-35-1289
FAX : 0235-29-5658
